

奥義 星平会海運命学

運命の神との対話法



四柱推命

占星術

虚九度

女十一度

牛七度

斗二十五度

箕十一度

命宮 巳
旺失 天刑星 天福星 天龍星 天池星 文昌星 天梁星

大限 1977~1986
小限 2007年

父母宮 午
陷 七殺星 天空星 驛馬星

大限 2087~2096
小限 2008年

兄弟宮
旺廟 天紅地解 天紫

目次

■はじめに	6
コンピューター占いの限界	7
本当の仙人から言われたこと	9
■あなたは運命学の味を知っているか	11
内面の探求の事例	14
内面の観察から逃げないこと	19
■真の運命学は科学である	20
■どんな理論も証明するまでは信じてはいけない	24
■占星学と四柱推命の統合	26
■ある運命学の大家の悩み	30
■運命学は味わうものであり知るものではない	34

- ものごとを分割する思考では星平会海は使えない 38
- 分割思考のほう売れる 43
- あなたの心を構成するものは何か？ 45
- 未熟な親から育てられた心 46
- 自分の中心を探る 47
- 極端から極端にジャンプするのが心の性質 50
- 味わいつくすと捨てられる 52
- 心は安易に解決できる課題を探そうとする 54
- 心は改善できない（破壊して再創造する） 56
- 運命学は心を分析するものではない 59
- すべての人間関係のトラブルの根本にあるもの 61
- 素敵な異性との出会い 61
- 企業と企業との関係 62
- 筆者の場合のトラブル 63

- 十干・惑星別の人間関係トラブル 65
- 期待するという言葉の背後にある身勝手な欲求 69
- 慈悲が自然にわいてくる人 71
- 慈悲をもちたいという経営者 73
- 意識的に生きる道具が運命学 75
- 生活の現場で運命学を使う 80
- 生まれ変わりはあるか？ 82
- 運命の神は机上の理論には無関心 84
- 運命の神との対話 86
- 成功の法則は欲望を変化させること 91
- インスピレーションはリラックスしているとやってくる 94
- 運命の神と遊ぶ 97
- 性欲は罪なのか？ 99
- 道徳的な人は反社会的になる 101

■ 真に宗教的な人	105
■ 道徳と倫理と運命学との関係性	
■ 死ぬのが怖い老人の心理状態	110
■ 国際結婚ビジネスで星平会海を使用	113
■ 運命の神との付き合い方	118

■はじめに

運命学の最高峰である**星平会海**のソフトウエアを発売して十年が経過しました。その間いろいろな問い合わせがあったのですが、**星平会海**という運命学にたいする質問はどれくらいあったと思いますか？驚くことにゼロ件でした。ほとんどが新四柱推命プロ版や西洋インド七政占星学プロ版との結果の相違点にたいする質問と、自動生成文章にたいする質問でした。

せめて四柱推命では鬭争的で強い人という診断結果が出て、紫微斗数推命では優しくて慈愛にあふれた人という矛盾する診断結果が出て、実際の人物をみても、どっちなのかよくわからない、これをどう判断したらいいのでしょうか？という程度の質問は来るはずだと予想していたのですが、そういうレベルの質問さえゼロ件でした。

これには、たいへんなショックを受けて当社も反省をしています。**星平会海**のソフトウエアを買ったユーザーが、**星平会海**の味にたいする質問がでてこないという状況にあるのを知ったからです。**星平会海**とは、占星学（ホロスコープ）と四柱推命をあわせたネーミングです。**星とは占星学（ホロスコープ）、平とは子平（四柱推命）**のことで、古代中国の仙人達は、

このような統合運命学を使っていたことが文献に記されていました。実際はそれに宿曜経と紫微斗数推命をくみあわせて使っていたようです。

ところが、ユーザーは4つの分割された占いが別々に存在していると勘違いしていて、組みあわせて使用していると予想されるユーザーはほとんどいないのです。それどころか、占星学のホロスコープ図と四柱推命の命式の両方を普通にながめて分析しているユーザーさえほとんどいないのです。

コンピュータ占いの限界

異なる占い技法の組み合わせと統合は、人間の脳がやる作業です。人によって、紫微斗数推命と占星学を組み合わせたほうがよかったり、四柱推命の十二運星と占星学の惑星を組み合わせたほうがよかったりと、組み合わせ方は無限にあるからです。実際の鑑定される人を問診しながら、組み合わせ方を探っていくのが実際の作業ですが、これができている人は、ほとんどいないのだと気がついたときは、大きなショックを受けました。

組み合わせが自由にできていれば、自分なりの格局のようなものも決定できますし、用神

も体神も自分なりに決定できるものです。もちろん、格局がホロスコープのアスペクトになることもありますし、用神がホロスコープの支配惑星になることもあるのです。通変星がホロスコープの惑星同士の関係性になることも多いものです。

筆者が以前、交流のあったプロ中のプロの占い師達（台湾で1人、日本で1人）はそういう星平会海の使い方方を日常で普通にやっていたものです。会話の例をあげてみましょう。

「アスペクトの形が直線的で比劫が多く、しかも氏宿だから、無茶苦茶反抗的だけど成功するかもね。」とか「優しいアスペクトの形で、天同星で印綬が強いから民間企業よりも学者とか公務員向きかな。」とか「乙で天干は陰干ばかりなので柔軟思考ができるけれど紫微斗数推命でみるとキツイからこの人は見かけだけ優しくて残忍のはず。それを隠して善人づらしていると人生の後半はノイローゼになるかもね。」とか「四柱推命では庚で天干は庚辛ばかり、占星学では水星が極端に弱いから相手の真意を理解する能力はないね。でも紫微斗数や宿曜経では目上に取り入るのがうまいからサラリーマンで一時的には用いられるけど、結局は経営者の言うことを理解しないから首になるかもね。独立したほうがいいね。」こう

いった会話を普通に酒を飲みながらしたものです。とてもユニークで占術や流派に束縛されない自由な会話を楽しんでいました。

本当の仙人から言われたこと

そこで、筆者は自分の鑑定をして欲しいと依頼したのですが、「ちよつと説明しにくいけれど、雲海さんは虎の守護霊がついていると思つたほうがいい。だから他の動物を食うことはあつても食われることはない。だから鑑定をして欲しいという要求が間違つている。2度とそんな質問はしないように。」と諭されました。このプロ中のプロの占い師達は、たんに命盤をみて鑑定しているのではなかつたのです。その人の会話や態度から波動を感じ取つて、それと4つの異なつた占いの技法を確認のために使つて鑑定していたのです。

しかし、このように実際の人物を目の前にして、その人物の波動を感じ取りながらも異なつた4つの占いの技法を、組み合わせて使うという発想は、悟りの境地にある一握りのプロだけが普通にできる次元で、普通の人では無理があります。

ではどうすればいいのか？無限にある組み合わせ方を箇条書きにして活字にするよりも、

自由に組み合わせさせて星平会海を楽しめる脳にユーザーを変容させて進化させるほうが手っ取り早くて合理的だと判断し、それが電子出版事業をはじめめる動機になったわけです。

無限にある組み合わせ方を箇条書きにすると、おそらく読んでもノイローゼになることでしょう。今までの脳の思考回路で理解しようとするからです。「星平会海 玄機伝」という名称にしたのも、星平会海とはなにか？を書いた理論書ではなく、どう使うかという実用面を書いた本だからです。

だから黙って座ればピタリと当たる的な運命学の使い方の延長を望む人は、本書の価値は理解できません。電卓をたたいて、だれかの運命が分かるような魔法があると信じているようなオカルト的なものを望む人も、本書の価値は理解できません。

最初から最後まで、読者の脳を変容させることを目標にしていますから、変化と進化を望む人は本書を繰り返し読むことで、高い次元に自分自身の存在を変容することができます。

■あなたは運命学の味を知っているか

運命学を習っても使いこなせる人は1%もいないのが現実です。わけのわからない理屈を沢山知って、それで使いこなせると勘違いしている人も多いです。運命学についての知識と理屈はあっても、運命学の味を知っている人は1%もいません。南極について本を100冊読んで知識はあつたとしても、実際に南極に行つて歩いた人のほうが南極を味わっています。地球とは何ぞや？ということの本で一生かけて研究した人よりも、宇宙から地球を観察した宇宙飛行士のほうが地球の味を知っています。

なぜ運命学の味を経験して、実際の生活で運命学を使いこなせないのでしょうか？それは自分の内面を深く見るといふことができないからです。自分の内面が見れない人は、当然ですが他人の内面も見れません。では、なぜ内面を見れないのでしょうか？

意外にここが盲点です。

自分の醜い内面を見る勇氣がないからです。中高年の場合、醜い内面のほとんどの根源は、心の奥底にあるコンプレックス（兄弟との比較、同級生との比較、親戚との比較）です。それを植えつけたのはもう80歳を超えているか、亡くなっている親や先生ですから、親や先生はその中高年のコンプレックスは除去できません、自分で除去するしかありません。運命学の理論・理屈にはまってそこから抜け出せずに、ますます運勢を悪くして、苦しそうな顔をしている人は、心の奥底にコンプレックスがあります。コンプレックスというとやわらかい表現ですが、「恨み」と「妬み」と自分は不当に扱われているという「劣等感」ということです。運勢を悪くするのを喜ぶのは悪魔や自縛霊ですが、その悪魔や自縛霊が喜ぶのが、「劣等感」です。悪魔や自縛霊自身が、劣等感と恨みのかたまりですから、仲間が欲しいわけです。

筆者の場合も、親からコンプレックスを植え付けられました。世間では一流大学を卒業したという評価ですが、高校時代は40人クラスで35番でした。それを先生や親から毎日ダメだ。もつとしっかり勉強しろと愛という名前の暴力的な教育を受けるわけです。40人中、

10人が東大に合格し、10人が医学部に合格し、筆者のようなおちこぼれが地方の大学にすべりこんだという形です。ですから、高校生の頃は、ひどいもりで、人前で話すのは嫌でした。社会人になってからもそのコンプレックスはありましたが、転職を重ねるうちにそのコンプレックスはなくなってきました。東大や海外の大学を卒業したメンバーとチームをくんで仕事をやるのですが、彼らは顧客の潜在的なニーズが分からないのです。ハッキリ言えば、彼らエリートには他人の気持ちを分かろうとする意欲さえありません。だから、自己満足的な企画で仕事を進め、失敗を繰り返していました。その結果、会社に損害を与え続けて、彼らはリストラされました。

かわりにチームのリータに抜擢されたのは、なんと夜間高校を卒業して入社した男性でした。苦労人だけあって、人の気持ちがよく分かります。だから、顧客の潜在的なニーズも察知し、先回りして商品を企画するので、成功するわけです。

そういう体験を繰り返すうちに、コンプレックスがなくなるとともに、自分の内面を探るようになってきました。コンプレックスがある時期は、運命学の理論、理屈に関心があり、ありもしない真理の理屈を探求していました。(この段階で苦しんでいる人が多いのが現実

です)

コンプレックスがなくなってくると、正しく生きる道の回答は自分という人間存在の中にあると確信し、自分の内面を探る道具として運命学を使うようになってきました。

つまり、運命学は目的ではなく、ただの道具、カンナとのこぎりと同じ扱いです。では、どうやって内面を探求するのか、その事例を紹介しましょう。

内面の探求の事例

ある女性と出会って性欲がわいてきたとき、その女性のどのような部分見て性欲がわくのか？自分を観察してその観察結果と、運命学との命式を照合してみるべきなのです。

筆者の場合は、征服欲が沸いてくるパターン（壬）と母性愛に刺激を感じるパターン（己）がありました。五十五歳を過ぎた頃からは、母性愛を求めるようになりました。今婚活中で交際中の女性は筆者よりも二十五歳年下ですが、やっぱり母性愛を求めてしまいます。

自分の上司と対立したとき、その上司のどこが気にいらぬのか？自分を観察してその観察結果と、運命学との命式を照合してみるべきなのです。

筆者の場合は、経営者から言われた内容をそのまま納得もせず部下に命令した瞬間に对立するパターン（財星）が多かったです。

自分の恋人と対立したとき、その恋人のどこが気にいらぬのか？自分を観察してその観察結果と、運命学との命式を照合してみるべきなのです。

筆者の場合は、相手が実行もしないで理屈で主義主張を繰り返すパターン（甲・乙）のときに、怒りが沸いてくるが多かったです。婚活していて女性も四十歳を超えてくると知恵がついてきて理屈は立派なのですが、それにともなう行動実績がない女性が多かったように思います。

投資に失敗したとき、自分のどの欲求が災いしたのか？自分を観察してその観察結果と、

運命学との命式を照合してみるべきなのです。

筆者の場合は、社会的に有名な人からの紹介だからと言って信じた場合（印星）と流行の先端だと勘違いした場合（胎星）でした。

小学校の子供が算数で悩んでいるとき、悩みの根本は何なのか？自分の子供を観察してその観察結果と、運命学との命式を照合してみるべきなのです。

筆者の子供の場合は、帝旺（十二運星）特有の問題を勘違いしたまま算数をしていることが多かったです。つまり悩みが間違っているのです。

商談で失敗したとき、成功したとき、その原因は何だったのか？自分を観察してその観察結果と、運命学との命式を照合してみるべきなのです。

筆者の場合は、他の会社の物真似（冥王星）はやめましょうと言いつぎたため、ビックビジネスを逃したことがあります。物真似だと分かっただけ指摘して、しかし相手の要望を快く認めるときはビックビジネスになりました。

チーム内でいきちがいがあつたとき、その原因は何だったのか？自分を観察してその観察結果と、運命学との命式を照合してみるべきなのです。

筆者の場合は、自分の上司に小さなトラブルの段階で相談しなかったために（官星）、問題が大きくなったことがありました。

取引先から想定外のクレームがあつたとき、想定外と感じたその原因は何だったのか？自分を観察してその観察結果と、運命学との命式を照合してみるべきなのです。

筆者の場合は、想定外のこととはほとんどありませんでした。相手の生年月日から事前に命式を出しておけば、どんな反応をするかは、だいたい想定ができるものです。

映画を見て感動したとき、その映画の何に感動をして感動の原因は何だったのか？自分を観察してその観察結果と、運命学との命式を照合してみるべきなのです。

筆者の場合は、常識をひっくり返す真実に触れたという印象（辛）が残った映画でした。

ディーラをまわって車を契約したとき、なにに納得して契約したのかその原因は何だったのか？自分を観察してその観察結果と、運命学との命式を照合してみるべきなのです。

筆者の場合は、その車の設計がどれだけドライバーの立場になって負担を減らすか（財星）に重点をおいているかがポイントで、営業マンの品質には無関心（印星）でした。しかし、五十代になってからは印星が作用したようでも車そのものの設計はもちろん重視しますが、だれから買うか？を厳しく選択するようになりました。将来性のある若い営業マンでないと買う気になれません。時柱にある印星が作用したようです。

ある人に出会って、その人を尊敬できると感じたとき、何に尊敬と感じたのかその原因は何だったのか？自分を観察してその観察結果と、運命学との命式を照合してみるべきなのです。

筆者の場合は、誰もやったことのない前例のないことをやっているかどうか（胎星）がポイントでした。

内面の観察から逃げないこと

内面を見るには、醜い自分の内面と相手の醜い内面を認めないとできない作業です。相手の内面をあばくような質問をしないといけないこともあります。その作業をしないで人間を診断できる魔法があればそのほうが楽ですね。

その魔法に見えるのが、運命学の理屈なのです。四柱推命でいうと、格局とか用神とか喜忌とかという概念です。まるで電卓をたたいて計算ができれば、全部がわかるような錯覚を感じさせる理論ですが電卓をたたいて人間が診断できたという事例は歴史上ありませんから、これはインチキ理論です。

インチキですが、内面を見ないで済むということは楽なので、勇気のない知性的な人がこれにはまっていきます。さらに人とトラブルを起こしたくないと思っている人で安定志向が強い人は、どんどんはまっていきます。経営者が面倒な人事を四柱推命でやりたいという動機のほとんどはここにあります。本気で従業員と触れ合う努力をしたくない怠け者の経営

者です。

人事コンサルタントビジネスをてがける業者は、このあたりの経営者の深層心理を逆手にとります。だから、人事理論は難しくて矛盾だらけのほうがいいのです。いつまでも理論でコンサルタント料金をとれますから。

勇気を出して自分の深い内面を探求したい人のために、この本を執筆しました。最終的には読者が運命の神と対話できるようになる基準を目標にしています。

■真の運命学は科学である

究極の運命学は哲学ではありません。思想でもありません。哲学と思想は机の上だけでできてしまうものです。頭だけあれば事足りません。自分自身が変化する必要もありません。行動する必要がないからです。哲学などは、ただの頭の体操みたいなものです。

究極の運命学は科学です。科学は実験を積み重ねデータをとって、最後に理論で整理するものです。実験の積み重ねが科学的作業の90%を占めます。運命学は人間を探求するものです。だから人との関わりあい、人とのトラブル、人との恋愛、などを自分で実験して汗をかきながらデータをとらないといけないのです。

しかし運命学を哲学とか思想とかの分野だと思つと、その取り組みはとっても簡単です。机の上で知的に取り組みさえすればいいからです。行動する必要もないし、あなた自身が変化する必要もないからです。今の自分と今の生活をなにも変える必要がないのです。今日の自分と明日の自分は変化しなくて済むので同じなので安心できます。危険はありません。しかし、**運命学は体験しないと知ることはできません**。全身全霊をこめて味わう必要があります。たとえば、命式見ると四柱推命の日干に「甲」があつたとします。しかし甲を全力で体験して甲を生きて甲を通り越していかないと甲を知ることができません。

四柱推命を三十年やっているプロでさえ甲を体験していない鑑定士が多いので、甲をやさしく、面白く、ユーモアをまじえて語ることはできません。運命学の理論本をいくら読んで

も運命学は分かるはずはないのです。体感してはじめて星の意味が分かるからです。占いの先生は沢山いて、占いについての博士も沢山いますが、その味を語れる人となるとほとんどいないのが現実です。まるで神学校のようにです。神について、神の種類について、神の理論について語る教授はいても、神の味について語れる教授は1人もいないのが神学校です。

筆者に「甲」という星はありません。しかしサラリーマン時代の嫌な上司が「甲」だったので。宿曜経でみると角宿だった。四角四面の融通の利かない社内規則に束縛された理詰めの指示（甲と角宿）は、納得ができなかったのです。だから徹底して、反抗し、ケンカをした結果、降格させられました。そのおかげで甲と角宿を体験することができたわけです。甲は自尊心が強いなんていう言葉で理解できるものではありません。角宿の融通の利かない固さはもうどうにもならないと痛感したのです。自尊心を傷つけたら、人事評価を下げられ降格させられ給与が下がるという恐ろしい体験を通して、はじめて甲の自尊心というのはこういうことなんだと体験から知ることができるとは思います。

また今通っているクラブのホステスさんに「甲」の女性がいます。美人だと思おうのですが

本人は自分の容姿に劣等感をもっていてエステに頻繁に通っています。化粧もとても濃いです。話しが上手なのでそれでいいんじゃないの？と思うのですが容姿に対するコンプレックスが強く納得しません。これも甲の自尊心ですね。

こういう体験すればするほど、それは天賦の個性だと認めざるを得ません。相手の個性を変えようなんていうのは傲慢であることがよく分かります。変えられるのは自分だけです。

知識と理論で運命学をやっていくのは容易です。リスクがありません。変化もなく前のままです。しかし、運命学を体験するのは簡単ではありません。リスクがあるからです。生活が変化があるからです。前のままでいることはできないからです。体験は人を変えるから体験は怖いのです。理論では人は変わらないから理論や理屈をやっている限りは安心できません。

運命学を本気で習得しようとするなら、活字になった理論はただの頭の体操、お遊びだと知ることです。

■どんな理論も証明するまでは信じてはいけない

生年月日から四柱推命の命式を出してそれを解釈する理論は無数にあります。五行の点数計算のロジックなど占いスクールで教えているのはせいぜい10パターン程度ですが、筆者は理論を創造できるので、1000パターンでも10000パターンでも理論を開発することができます。4つの柱の横関係のエネルギーと縦関係のエネルギーと斜め関係のエネルギーの組み合わせで計算式がなりたっていることを知っていれば、わけもないことです。格局についても、占いスクールで教えているのはせいぜい10パターン程度ですが、筆者は理論は創造できるので、1000パターンでも10000パターンでも理論を開発することができます。命式上でたくさん算出される通変星のいずれか1つだけを特定するだけのことだから、たやすいことです。大運の理論も同様です。日本では2パターンが知られていますが、1000パターンでも10000パターンでも理論を創造することができます。大運法の計算原理がホロスコープのプログレス法だと知っていればたやすいことです。

理論を突き抜けた人にとっては、机の上で発明できる程度の理論なんて、無数に発明できるものです。しかし、これは理論にはまって、そのワナから脱出できないでいる人には理解できないことです。いろいろな占いスクールに通って、どっちが正しいのかを悩んでいる人には理解できないことです。

自分の内面を見れる人は、自分の観察ができます。だから内面を運命学という道具を使って観察している人は、つまり運命学を味わっている人は、自分自身を実験台にして自分にあつた理論を創造して証明していけるのです。

世の中の多くの人が、そんな理論は間違っていると評価されても気にしないのです。自分で役に立っていることを証明しているからです。証明とは、以前よりも確実に豊かになった。以前よりも生活が楽しくなった。以前よりも人間関係が良くなった。以前よりも出会う人のレベルが高くなった。ということなのです。

つまり、以前よりもハッピーになつているのだから、他人から「あなたの理論は間違つている」と指摘されても、「ああそうですか、その間違いの理論で自分はハッピーだからそれ

でいいんです」と言えるのです。ハッピーになっっていない人だけが、理論の是非を議論したりがります。

筆者の場合は、運命学を道具として使うために星平会海を使います。四柱推命だけ、ホロスコープだけだと道具が不足するからです。たとえば格局をホロスコープでも出せると言えば、読者は驚くでしょうか？理論を通過した人は、これくらいはやっているものです。といっても、日本でこれをやれる人は1〜2人しかいませんが。ホロスコープで出した格局的な結果と四柱推命の星を組み合わせると、とても実用的に使えるのです。ちよつと頭に浮かぶだけで9種類の組み合わせがあります。格局とはネームプレートのような役目があると泰山全集の手書きの原本には記載があり、これがヒントになります。ちよつとだけやってみましょう。

■ 占星学と四柱推命の統合

・ホロスコープの支配星座に四柱推命の日干を融合させる。
たとえば、山羊座の壬の場合、義務と使命感に支えられた戦いをする人となります。

・ホロスコープの支配星座に四柱推命の十二運星を融合させる。
たとえば、山羊座の胎星の場合、義務と使命感に支えられてまったく新しいオリジナルを提案する人となります。

・ホロスコープの支配星座に四柱推命の通変星を融合させる。
たとえば、山羊座の偏財の場合、義務と使命感に支えられた商品をビジネス化する人となります。

・ホロスコープの支配惑星に四柱推命の日干を融合させる。
たとえば、冥王星の壬の場合、既存のシステムを破壊し創造する戦いをする人となります。

・ホロスコープの支配惑星に四柱推命の十二運星を融合させる。
たとえば、冥王星の胎星の場合、既存のシステムを破壊し創造するがやり方はオリジナルとなります。

・ホロスコープの支配惑星に四柱推命の通変星を融合させる。
たとえば、冥王星の偏財の場合、既存のシステムを破壊し創造することでビジネスにする人となります。

・ホロスコープの支配アスペクトに四柱推命の日干を融合させる。

たとえば、0度アスペクトの壬の場合、独立志向が強く、徹底して勝負する人となります。

・ホロスコープの支配アスペクトに四柱推命の十二運星を融合させる。

たとえば、0度アスペクトの胎星の場合、独立志向が強いが、他人の真似はしない人となります。

・ホロスコープの支配アスペクトに四柱推命の通変星を融合させる。
たとえば、0度アスペクトの偏財の場合、独立志向が強く、ビジネスも強引にやっていく人となります。

いかがでしょうか。すべて筆者の事例で9種類を書いてみました。現実の人を見て、このなかから最も活動している星同士の組み合わせを格局とするほうが、教科書通りの四柱推命の格局よりも次元の高いことが分かるでしょう。

自分で理論と知識を証明していない人は、今までと異なった理論を他人から言われると、もう迷いが生じますから、読者のなかにも、どっちが正しいんだろうと迷いが発生した人もいますでしょう。もし、あなたがハッピーになれた知識があるのであれば、それを信じたらいいのです。ハッピーでないなら、常に不安があり、恐れがあるなら、常に今までとは違ったものに惹かれてしまうことになり、迷いが発生するのです。

筆者は、自分の人生で運命学理論を証明済みだから、本やビデオにしているわけですが、筆者の人生体験は、あなたには味わえません。だから、あなた自身が、自分がハッピーになれるかどうかで、正しいかどうかを判断すべきなのです。筆者に、正しい理論なのですか？と質問されても、こう答えるしかないのです。筆者の人生ではそれを証明済みだ。しかし、あなたは筆者ではない。筆者はあなたの代わりに人生を体験できない。だから、自分で証明してください。

■ある運命学の大家の悩み

運命学の大家と言われる人がいます。すべての占術を習得して頭のなかは知識でいっぱいです。しかし、その大家は自分のことがわからないのです。人生に、結婚に、離婚に、子育てに、人間関係に悩んでいるです。筆者に自分はこういう人間なのか？と聞いてきたことも

あります。

そう、知識だけ積み重ねていくと自分が誰だなのか、自分の根本は何なのか分からなくなっていくものです。つまり、うつ病、精神疾患になるのです。知識は経験してはじめて体中の細胞に浸透する知識となりますが、経験しないと心に蓄積されただけの使えないデータベースのままになります。つまり、意識レベルは変化しないので、その運命学の大家には繊細なものを感じ取れる感性はなく、従って人の悩みの奥を察知して慈悲を感じる心はないのです。彼がそうありたいと思っても、慈悲の心は、意識的に生きると勝手にそうなるものであり、目標にすべきものではありません。

筆者は日干が「壬」です。全面的に壬になって戦ってみるしか壬を理解する手法はありません。体験してそれを通りこすと壬が分かります。そして壬に支配されない人生を生きられます。つまり、再誕するのです。壬でありながらそれとは逆の丁の面も含んだ人生を生きられるようになるのです。命式が変化すると言ってもいいでしょう。そうなると過去の自分は

もう分からないのです。だからこの現象を再誕と呼ぶのですが、ちょっと難しくなるので、このへんでやめましょう。

重要なことは、理論で、「壬」は戦いが好きで危ない橋を渡るから、それをしないように生きようなんてやってしまうと、どうなるか？ もはや死んだまま生きるゾンビ人間となってしまう。

真の運命学にとっては、ホロスコープであろうと四柱推命であろうと流派の違いであろうとそんなことはどうでもいいのです。運命の神にとって重要なのは、あなたという存在自体がやってみて結論を先に出すことです。体験をとまなわらない理論は、やればやるほど頭をやられます。

実行しないで方位ばかりとって凶をさけようとしている方位オタクも多いのですが、ほとんど、頭がやられています。実行して経験をすれば、その経験を運命学で整理することによっ

て自分の内面が整理できるのです。

理論的で議論好きな人は意外に人生に悩みがちです。もし〇〇したらどうしよう。もし〇〇になったらこういうリスクがある。といったことを何も行動しないで永遠に思考しているからです。だから、理論的で議論好きな人はノイローゼになりやすいし、自分のことをOKだとは思っていないのです。だから中高年になっても理論的な人には、それ以上の理論は不要なのです。理論的な人に必要なのは理論を体験することだけです。

体験しようとする**と必ず悪魔がささやきます**。本当にそんなことをして得があるのか？過去にそんなことをやって失敗してきた経験があるではないか。周囲を見渡してごらん。そんなことをやっている人はいないよ。こんな悪魔の声が必ずするのです。

だから**少しだけ理論を知つてすぐ**に行動を起こすのが一番成功する手法なのです。たくさん知ることはいいいことではないのです。知れば知るほど混乱してしまうものです。筆者が北

海道で開運のための乗馬施設を運営しはじめた理由もここにありません。運命学をやる人は理論的な人が多いので、悩みがちで暗くなりやすいものです。運命学の理論よりも、体験させたほうが手っ取り早く自分の内面と会話できるので、乗馬というスポーツをやっているのです。乗馬は自分のマインドがそのまま馬に伝わってしまうからです。たとえば、迷いの多い人が馬に乗ると馬も迷います。理論優先の人は、乗馬理論通りに馬が動かないのを体験すると、理論よりも体感を優先するようになります。優柔不断な人は馬のリーダーになれずなめられてしまいます。

■運命学は味わうものであり知るものではない

筆者は運命学をやって三十年の間、いろいろな質問をされました。そのうち99.9%が好奇心からくる意味のない質問や運命学についての質問でした。運命学を味わいたいという気持ちをもった質問はほとんどありませんでした。運命学に詳しい博士のような人もいて、

何時間でも運命学セミナーがひらけるだけの知識はあるのですが、相談者の問診さえできません。

四柱推命について、ホロスコープについて語ることは沢山ありますが、四柱推命の味とか、ホロスコープの味を語ることはできないのです。実際の生活で体験して味わっていないからです。

ひまわりを見たことのないエスキモーが、ひまわりとはなんなのかを活字で調べて暗記して、ひまわりについて説明しているようなものです。フェラーリに乗ったことのない車のマニアが、フェラーリのデータをネットで調べて何時間もフェラーリについて説明しているようなものです。結婚生活を経験していないカウンセラーが、結婚についてカウンセリングで何時間もしゃべっているようなものです。開運を経験していない占い師が、占いについて沢山の書籍を出版したりTVに出て語るようなものです。

運命学を味わうとはどういうことか？ 運命学は行動して確認しないと味わうことはでき

ません。

筆者であれば、取引先の担当者のデータから命式を出して対応の方法をその場で変えるといったことをしています。たとえば、甲なら知的会話を中心にする。丙なら微細にわたる話しをする、戊なら世間話しから入る。庚ならマネーの話しと利益の話しでいい。壬ならいかに競合他社に勝てるかという内容に焦点をしぼる。つまり、相手が反応しやすい話題から話しをするわけです。決して自分の個性からでてくる話題などは言いません。

今現在は、乗用馬の調教をある調教師から教えてもらっていますが、その調教師の命式を調べて、その調教師の特性を理解して、その特性にあった方向で質問をしているわけです。日干と月干が丙の人（古典原理では、天に両日なしと言う賤命だが）なので、集中力がものすごい。集中力の結果なにが優れているかという点、走っている馬を3秒間みただけで、その馬の心理状態と筋肉の使い方や問題点がわかるのです。だから、筆者は、自分のトレーニング風景をビデオに撮影してみてもらうようにしています。なにが問題か、なにを変えれば

いいのか、というような質問の仕方です。そうすると、ビデオを30秒間みただけで、即刻問題点を指摘してくれます。筆者はその指摘に従って翌日からしばらくトレーニングをするわけです。

こういうふうになれば、教えるほうもわずかの時間で済むから負担はかかりません。教わるほうも、即刻明日からのトレーニング方法を変えることができるので、とても合理的です。毎日その調教師と顔をあわせていますが、実際の指導という観点からいえば、1日2〜3分で済むのです。

ここで重要なことがあります。納得するまで質問しないことです。納得などできるわけではないのです。

極度の集中力の結果得られる馬をみる観察能力というのは、その人だけのものであるからです。納得できなくても翌日から実行してみれば、結果が出るのです。筆者以外にも多くの人が、その調教師にアドバイスをもらっています。理論的に納得するまで聞いています。だから、そういう人は進歩しないのです。納得できるはずがないのに（経験していないから理解できない）、理論的に納得したいという欲求が間違っていることに気がつかないからで

す。だから理論は欺瞞なのです。

こういう事例を書くと、じゃあ十干別に、応答話法を教えろという要求がくるのですが、これも欺瞞です。生きている相手を観察したくない、観察できない、触れ合いたくないという人と人の触れあいを恐れる人に限って、こういう要求をします。最初にすべきことは、相手は生きている人間なんだから、素直に観察してみることです。その結果を運命学で整理すればいいだけです。観察力がなければ、運命学の助けを借りればいいだけです。それを実際の間を観察しないで機械的に理論で応答話法を製造するなんて、頭がイカレテイルとしか思えないのです。

筆者の事例を示すことで、運命学を味わうということが少しは理解できたでしょうか。

■ものごとを分割する思考では星平会海は使えない

生まれただけの子供にはものごとを分割して考える知性がありません。ものごとを善と悪に分割するマインドはありません。やってはいけないこととやってもいいことを分割することができないくらい、純粋なのです。しかし、学校に行き、親から教育をうけるにつれて知識が増えてきます。知識が増えてくるとものごとを分割してマインドが成長してきます。そしてそれは大人になっても続き、普通の人は死ぬまで続きます。自分のことを診断するさいにも、ここはOKであるが、ここはNGだというように分割して考えがちです。だから大人になれば不純になっていきます。

不純だから自分の美しいイメージを勝手につくりあげていて、それが自分だと思い込んでバランスをとっているのですが、実際の自分は、そのイメージの外で生きているわけです。分割のマインドが成長していくとこんなふうになつて2重人格的になつてくるのです。

さて、ものごとを善と悪、不幸と幸福といった分割のマインドで生きていくと、かならず、

最後は恨みと嫉妬が残り、自分の人生はこんなはずではなかったと言うようになります。その結果、90歳を超えても、まだ死にたくないと言い、介護士にセクハラをせまったりします。してもいいことだけを無理にやってきて、してはいけないことを無理に抑えた結果、死を目前にすると、まだ生きていないからもっと生きたいと言い、もっと異性を触りたかったという欲求が表に出てくるのです。はつきり言って、醜い老人に成り果てるのです。

分割マインドに慣れた不純な人が運命学をやってしまうとどうなるか？ 運命学をやっても、吉とか凶に分ける知識が増えてしまい、ますます分割が複雑怪奇になってしまい不純度が増すだけなのです。顔を見れば自分は被害者だ、不当に扱われているという不満のある顔をしていて、落ち着きません。分割思考に束縛された不純な人が投資をやるとどうなるか？ 勝率95%なんていう知識に束縛されて、マインドを恐怖心に支配されてしまい最後には負けてしまうのです。

しかし、1000人に1人くらいは、この分割思考を卒業する人がいます。その人を賢者

と呼びます。いいことも悪いことも自分であるから、それを認め、分割する思考がなくなつた人です。そういう人は純粹です。運命学をやつても、吉とか凶に分けることをまったくしないのです。自分の美しいイメージをもっていることはありません。現実は一つだけだからです。善も悪も自分であると統一されていて、全一にものごとを観察することができるので。だから顔を見れば落ち着いてゆつたりしています。

ウソがない人は、善と悪の両方を認めて統合されています。あなたは女好きですねと質問されればその通りと自信をもつて答えるでしょう。あなたは人よりもお金持っていますねと質問されれば、その通りと自信をもつて答えるでしょう。賢者とは、特別ななにか新しい知識をもっている人のことではありません。理論と知識を超えたものを体感している人のことです。

だから、賢者の人は十年という期間で見れば投資で勝っているのです。分割思考の人は、投資理論をたくさん勉強して迷いの迷宮にはいりこんで投資で負けます。しかし、賢者は知

識や理論には関心をもちません。現実の株価が安くて10年以上、応援したい企業があれば、どんどん買って、買ったあとは株価を気にしません。分割して考えないからです。だから恨みとか嫉妬とかが残らない生き方ができるのです。

10年とか20年という期間でみれば、賢者の人は物質的にも豊かになっています。ところが、賢者の人は他人にその考え方を教えようとしません。なぜか？そんなウソを教えるのと攻撃されるからです。知識を超えた知性は、分割思考の人からみれば、腹ただしく、ウソのように感じるので。だから、いつの世も賢者の考え方が流行したり人気になることはないのです。

星平会海運命学も4つの運命学を統合した技法であり、分割されたものではありません。ところが、星平会海運命学を使う人が普段から分割思考で生きていると、バラバラ運命学になっちゃって、統合はできないのです。星平会海運命学を使う人が普段から分割思考を捨てて統合的に全一で生きていると、バラバラ運命学ではなく、統合運命学として使用できる

ようになるのです。

分割思考のほう売れる

いつの世も人気が出るのはバラバラ運命学の発想の延長にあるものなのです。流行したり人気になるのは必ず善と悪とを区別して悪を排除するパターンのものです。つまり、ありえない理想、自分以外のものになる幻想を追いかけるものが人気が出るのです。自分のなかの醜い欲望、セックスのことばかり考えているマインド、恨みや嫉妬に満ちたマインドこれらを排除するような、実際には実現不可能なパターンを利用したビジネスが人気が出るのです。

最近ではゲス不倫とかいうのが流行しています。不倫は許せんという雰囲気ですが、五体不満足のおさんが若い女性と不倫できることは、障碍者に希望を与えます。テレビの下着のCMをみた瞬間に母親や妹に襲い掛かるのが障碍者をかかえる家族の悩みです。そんな障碍者に希望を与えるのがOさんです。イギリスがEUから独立するから、世界中の経済が悪くな

るといつてメデイアは恐怖をあおります。株価はそのメデイアのおかげで暴落しました。経済って人間の欲求が根底にあります。女性なら、不景気になっても化粧品は買うし、風呂に毎日入るのを儉約して3日に1回にはしないでしょう。田舎に住む人なら車が寿命になれば、不景気でも買うしかないでしょう。雪国なら高性能の4WDを買うでしょう。これが経済です。イギリスがEUから脱退しても人の欲求はどんどん強くなるばかりですから、生活に必要な企業の株を買っておけばやがて利益が乗っかってきます。

お金にたいする執着心を排除すればそのかわりに精神的な欲望がそれにとってかわるだけです。セックスを排除しようとすると、非セックスにたいする欲望がそれにとってかわるだけです。異性とのセックスでなければいいんだらうという理屈になって、同性愛への欲望が芽生えたりします。芸能人や政治家に同性愛が多いのはこういう理由です。

他人を批判せず他人に優しいふりをする偽善者がいます。彼らは必ず自分に対して暴力的であります。だから、自虐的であり自殺未遂をおこしたり、うつ病になったりします。

怒りや欲望や暴力などすべてを認め自分の内面にとどまっていれば、やがてそれを通過できるときがくるものです。素直に自分の内面を認めるとというのが開運できる人の生き方ですが、自分の内面をとことん味わうという考え方はなかなか実行できません。勇気がいるからです。

ほとんどの人は、自分の醜い内面から逃げるように頭をずるく使うのです。頭の中は、できない理由と理論、自分を正当化する論理、自分以外のことを悪いという正義感、他人と自分を比較した結果の劣等感で満杯になっているはずですが、こんな状態では、運が良くなるわけはありません。

■ **あなたの心を構成するものは何か？**

あなたの心はなにからできているか想像したことがあるでしょうか？ 結論から言うと、あなたに対する他人からの反応の蓄積があなたの心です。あなたの心は、決して、あなた自身を中心にあるものではないのです。

生まれてから3日間くらいは、あなたは純粹だったはずですよ。あなたの心はあなたの中心と同じだったはずですよ。しかし、母親が自分を見て微笑むのを見ると、それがあなたの心に蓄積されます。父親が自分を見て喜ぶとそれがあなたの心に蓄積されます。あなたが笑うと両親が喜ぶとあなたの心にはそれが蓄積されます。学校の先生からあなたは算数ができない子供と評価されれば、あなたの心は自分は算数が苦手という要素が蓄積されます。大人になって友人があなたは、神経質な人ねと言われれば、それがあなたの心に蓄積されます。

未熟な親から育てられた心

未熟な親に育てられた場合はどうなるでしょうか？ もっと勉強しろ、もっと点数をとれ、

もつと頑張らないと将来は困るぞ、と言つて脅かされながら育つと、恐怖心と劣等感をもつた大人になっていきます。劣等感があると、弱い立場の部下をいじめる上司になり、さらにはもつと偉い上司には、へつらう人になります。つまり、嫌な管理職になります。上司にならない人の場合、家に帰ると妻を馬鹿にし、子供を馬鹿にすることでウサ晴らしをするので、人当たりのいい奥さんがうつ病になったりするのは、旦那がウサ晴らしの獲物として奥さんを手元においている場合が多いからです。

お分かりでしょう。未熟な親に育成された人は、大人になっても未熟なままであることが多く、世間体を気にして周囲からの評価を気にして生きていくため、心の中は周囲からの反射で満杯です。だから自分が何者かが分からないので、悩みます。しかし、未熟な親に育てられた場合でも、社会から訓練されるにつれて、精神が成熟し、他人から反射されて構築された心はどうでもよくなつてくるものです。

自分の中心を探る

あなた自身が何者なのかを思考し、自分の中心に触れようとしたときから、周囲の評価はどうでもいいと思うようになり、自分の魂との会話がスタートします。だから、40歳を超えて世間体を気にせず、評価を気にせず、自分の道を精進している人は、美しい香りがします。未熟な親を哀れむようにもなっているものです。

しかし、40歳を超えて60歳になっても、他人からどう思われているのかを気にかけて仕事をしている人は、自分の中心がないので、常におびえています。そして、そういう人に限って FACE BOOK をやりたがり、ブログ発信をやりたがり、オフ会をやりたがり、偉い人に会いたがり、自分よりレベルの低い人を馬鹿にしやすいのです。自分は偉いんだ、尊敬されるべきだという欲求があるのです。70歳をこえて、まだ自分の中心にいない人は、正直言つて醜い。まだ自分は尊敬されていないという文句ばかりで悪臭が漂う雰囲気です。心の中は、他人から反射されたゴミ（最初のゴミは親から受けた反射）が70年間分が蓄積されて腐っているからです。

他人からの反射を気にする人は、道徳的あり、倫理的であり、品行方正のように見えます。自分は尊敬されるべきだという他人からの評価を気にする欲望が大きいからです。しかし、それは仮面ですから、本当にもっている邪心は、どこかで思い切り暴れるのです。その相手は、自分の評価を落とさない保証のある風俗嬢であったり、レストランのウェイターであったり、下請け業者だったり、配偶者だったり、子供だったり、スナックの女性だったりするのです。

こういう人に自分の内面をとことん探求するための運命学は不要です。彼らに重要なのは他人からの反射であって、自分の中心ではないからです。だから、占いには関心があっても、まったく学習が進歩しないのです。こういう人は、同じサークルを回っているだけの生き方です。同じサークルは危険がなく、すべて知っている道だからです。他人からあなたはおかしいと軽蔑されることを嫌うので、新しい生き方をすることはできないのです。自分は他人からどう見られている？というメニューが占いコンテンツでは大ヒットしますが、占いは世間の目になることはできないことは占いコンテンツ会社は熟知しています。しかし売れるの

で、文章を捏造するわけです。捏造のうまいライターが重宝されるのが古いビジネスです。

風俗嬢や子供にたいして、無理を強いる男は偽善者です。自分の中心にいる男は、相手がだれであろうと態度に変化がありません。相手が会社の社長であろうと、風俗嬢であろうと、魂と触れ合おうとするからです。自分は尊敬されるべきだとも思っていないからです。自分は軽蔑されるべきだとも思っていないからです。自分は正しく評価されているとも思っていない。正しく評価されていないとも思っています。そういう他人からの反射には無関心なのが、自分の中心にいる人です。

自分で体験しないと分かりにくいかもしれませんがね。

■ 極端から極端にジャンプするのが心の性質

心は極端から極端にジャンプする性質である（非中庸）ことを知っている人は少ないです。なぜならば、思い切り愛したり思い切り憎んだりということを実行する前にやめてしまう人がほとんどだからです。それが適度で危険のない生き方（中庸）だと勘違いしているからです。

極端に愛してみるとどうなるか？やがて極端に憎むようになります。愛と憎しみは同じエネルギーの陽と陰だから。そこで中途半端にお利口に考える人は、憎しみを避けたいと思うようになります。憎しみのエネルギーをお利口に減らしたいのです。無理にそうやるとどうなるか？愛するエネルギーも同時に減っていくのです。結果として、愛も憎しみもない、人間の感情を無視した冷たい生き方をするようになってしまう。

本当に利口な人はこう考える。人生とは危険なものだ。やってみないとどうなるかは誰にも分からない。だから、徹底して憎んでみよう。そして憎しみそのものになって、その自分を観察してみよう。自分の醜い姿をさらけだして認めて観察するのです。そうやって、内面と直面すれば、やがて憎しみを超えて、最後には愛と憎しみは同じ（真の中庸）だと知るよ

うになるわけです。

前よりももっと次元の高い愛を体験するようになっていくのです。つまり愛を捨てられるのです。いったん、徹底して獲得して味わったものだから価値がないと分かっているから捨てられるのです。すべてをこのように実行して味わい尽くして生きていくのが利口な人です。やがてその人は人生経験を重ねるうちに賢者となっていきます。自然と洞察力がでてきて、結果的に投資活動も楽にやれるようになり、（大衆と逆に動けばいいだけだから）豊かになっていくのです。

味わいつくすと捨てられる

お釈迦様の人生をみたらよく分かるでしょう。王として生まれ、うまい酒と食事そして何百人もの美女に囲まれて青春時代を送った結果、それらを全部価値のないものと知ってしまつて、城をでて乞食になったのです。すべてを獲得して味わいつくした結果、全部を捨て

られるようになるのです。心というのはこのように極端から極端にジャンプするものです。

子供の頃から無理に宗教活動をやらされた人は、大人になると決まって反宗教になっていきます。好きでもない教会に行かされて、好きでもない聖書を読まされて、だんだんと反宗教のエネルギーを増大させるのです。

逆に子供の頃から無神論で育ってしまった人は、大人になって決まって極端な精神主義者になってしまいます。だから、子供には両方を教えればいいのです。宗教的な教えが必要なときにはそれを徹底して教え、物質的な教えが必要なきときにはそれを徹底して教えるのです。人生経験のなかで融合して、溶かしていくのは子供の責任です。両方とも真実であり正しいのだからそれを分割してどっちがいいとか悪いというふうに教えるのは最悪の教育方法です。

子供にセックスをいけないものだとか教えるかどうか？もう想像がつくでしょう。極端

に性的に関心のある性欲異常者になっていくのです。父親が警察官だった若い警察官が女性の下着を盗む事件が相次いでいますが、これなんかは典型例でしょう。警察官になるなら女性を性的対象としてみてはいけないと教育されれば、その逆の大人になってしまうのです。心のこういう性質を知っておいたほうがいいでしょう。

■心は安易に解決できる課題を探そうとする

心はどんな方法を使ってもエゴを満たそうとします。とても巧妙であなた自身の中心にあるものに触れさせまいと懸命に努力します。中心に触れたら、エゴは消滅してしまうからです。

心は、今のあなたの状態でも安易に解決できる課題をどんどん作成して、それをあなたに解決するように迫ります。あなたはそれを解決することによって表面的には満足するのです。

常に忙しく動き回っている経営者には、このパターンにはまっている人をよく見かけます。詳しく問診していくとそんなに忙しくしなければいけないほどの仕事ではないのに、忙しいと言っています。本当は根本から解決しなければいけない問題があるのにそれに取り組むのを避けるために心はわざとつまらない仕事を作り出してしまっているのです。そして、自分の中心と接触しないまま動き回っているのも体も精神も疲れ果ててしまっているのです。ただし、ここを指摘すると経営者は怒りますから、放置するしかないので。

自分に起こったトラブルは、どんなものであってもその根本原因は自分にあります。本当なら自分の中心から観察して自分を変えるべきなのです。しかし、心は今のままでもいいではないかと常にあなたを誘惑し、根本原因から目をそらすやっかいな性質をもっているのです。

もうお分かりでしょうが、あなたに蓄積されている感情の癖は後天的なもので、他人からの反射で作成されているものですから生まれつきの個性ではありません。生まれつきのもの

ではないのに、生年月日から四柱推命や占星学の命盤を出して心を診断する必要はまったくないので。心のトラブル、感情のトラブルを運命学を使って解決しようとするのはまったくナンセンスだと分かるでしょう。天賦のものを診断するのが運命学ですから。

■心は改善できない（破壊して再創造する）

心というものは慣れたものが気持ちいいと感じる性質（環境順応性）をもっています。親が未熟で、あなたがもつと頑張らないといけない、もつと正しくないといけないと言われつづけて育った場合、そしてそれに思い切り反発して抵抗しなかった場合、心は順応して同化していきます。心は大人になってもいつも、もつと頑張らないと怒られるという恐怖心が支配していて安堵することはありません。

親から暴力を受けて育った人は、上司や配偶者から暴力を受けたとき、心はああ昔味わっ

たあの感覚だと安心するのです。貧しい家庭で育った場合、うちにはお金がないからねとずっと20年近くも言われ続けてきた場合、お金がないことに心が馴れてしまいます。そうすると、貧乏が気持ちよくなってしまうのです。ここで言う気持ちがいいという表現は、浅い心の浅い感情の反応を示していて、正確に言うと、昔から何度も経験していきるので慣れていますという反応に過ぎないのです。

親からずっと「公務員は安定していていいぞ」とずっと20年近くも言われ続けてきた場合、公務員試験を受けることに心が馴れてしまいます。そうすると、安定することが幸せだと勘違いしたまま、結婚相手もそういう観点で選びやすいのです。30年間も公務員をやっている、独立してなにかをやりたいと思っても、99%ができないものです。

計画だけやって終わってしまうものです。心が拒否をするのです。心というのは過去にやったことはOK。過去にやったことのないものはNGと反応するようになっていくからです。慣れているものは好き、慣れていないものは嫌いという反応するのが心なのです。だから、暴力

を受けて育った女性は、暴力を振う男性と結婚しやすいのです。暴力は慣れているから好きという感情になってしまふのです。正確に言えば、好きとか嫌いという感覚そのものが、狂っています。

そういう親からの影響を完全に打ち破った人には、運命学は必要ないし、関心がないのです。倫理や道徳にも束縛されません。世間体にも束縛されません。中学生で親元を飛び出して渋谷の街をうろついている少女達は、そういう親からの因縁をいち早く打ち破った勇気ある人です。彼女達の感性は神に近い。有名私立の制服を着て、いい子ぶっているながら見えないうところで「売り」をやっている確信犯の少女達よりも美しい。

心というのは、このように生まれてから自分以外の人からの反射で形成されていくものです。だから、心で判断すると道を誤るのです。もつと深いところから、自分を観察しないといけない。その道具に運命学はとても有効です。自分の命式をみて、当たっているとか当たっていないという浅いレベルの反応は、他人から形成されたゴミの集まりである。心の反応であ

るから、どうでもいいのです。好きとか嫌いという感情もどうせゴミの集まりである心の反応だから間違っているからどうでもいいのです。

この心というのは残念ながら改善はできず、改良もできない性質をもっています。心は他人からの反射というゴミの蓄積だから、ゴミをそのままにしておいても改善はしないのです。いちど破壊して再度生成しないとイケない。だから、親元から飛び出して親に依存せず生きていく少女や少年達は、心を破壊する勇気をもった人なのです。

運命学は心を分析するものではない

運命学は心を分析するものではありません。生まれた瞬間に決まっている個性を分析する道具が運命学です。心は、生まれたあとに他人からの反射で形成されたものだから、環境によつてぜんぜん違った心になるからです。

自分の魂の本質はなんだろうと思つて奥深く隠れている自分を観察する道具として運命学を使うのがいいのです。心は慣れたもの（それが不幸なものであったとしても）にしがみつくから、道具がないと本当の自分を知ることが難しいのです。本当の自分を、ほとんどの人は知りません。だから、正しく運命学を使うと、当たらないのです。

10年以上、運命学をやった人の心が慣れてしまった単語があります。格局、用神、五行、喜忌、吉凶、干合、甲は大樹、乙は草花、丙は太陽、丁は灯火、・・こんな表面的には美しい理論に見えて、実際は使えない言葉を見た瞬間に、ああ気持ちがいいと感じてしまうのが心なのです。あまりにも長い間慣れ親しんだものは、その内容がどんなものであれ、気持ちがいいと感じてしまうのが、心の性質です。ゴミ屋敷の住人はあのゴミ山が気持ちがいいと感じているのと同じ現象です。だから、悲しいことですが、それらを捨てる必要のある新しい運命学は怖くて仕方がないので、拒否する傾向があります。

■すべての人間関係のトラブルの根本にあるもの

心はこれまで述べてきたように他人からの反射の蓄積ですから、現実を反映する性質のものではないことが分かったと思います。心が作り出す好きとか嫌いという感情も、現実を反映したものではないことが分かったと思います。

素敵な異性との出会い

あなたが素敵だと心が「感じた」異性と会ったとする。その直後から、あなたは期待し始めます。この人は、自分のこういう理想に伝えてくれるはずだ。こんなふうに自分を幸せにしてくれる人だというふうに、まことに心は身勝手な要求を相手につきつけてしまいます。だから、恋は盲目だと昔から言うのです。

交際して3年も経過すると、必ずトラブルが発生しますが、その原因はあなたが勝手につくりあげた要求とか理想通りに、相手が行動しないからです。どうしてあなたは、そうなの？

なぜ、あなたは、私にこんなことをするの？　と云って、自分の身勝手な要求が通らないことを怒るのです。

なぜ、相手はあなたの身勝手な要求に応えなければいけないのだろうか？なぜ、相手は自由で発想し自由に行動してはいけないのだろうか？心は現実から遠く離れたところにあつて、そこで身勝手な幻想を抱くものです。それを運命の神様は、人間関係のトラブルという現実を通して教えてくれているのです。

企業と企業との関係

企業と企業の関係も同じです。取引先の会社とトラブルを起こす経営者は、常にトラブルを起こしています。必ず相手の特徴や個性を無視して、自分勝手な要求をつきつきていただけです。相手をまるで自分の理想の通りに動かなければならないとも思っているようです。

筆者が見た限りでは、十分な報酬も与えられないし、利益の出るような仕事でもないのに、昔からのつきあいというだけで、仕事をやらされているというふうに見えてしまいます。自分分は優れているから、自分の理想の通りに相手は動くべきだと思っている経営者が多いものです。そして、過去はその考えで多くの利益を出し、勢いがあつた時代も実際にあつたものだから、その成功体験を変えようとしません。なぜ、相手はその経営者の理想通りに動かなければいけないのだろうか？相手は相手の理想がまったく違った形であるというのに。

筆者の場合のトラブル

筆者も最初の頃は、運命学の理論書を書いて出版していました。最初の頃は、新しい推命家がデビューしたと言って、実にいろいろな人が面会を求めてきたものです。美しい女性もいれば、主婦もいれば、ヤクザもいました。甲で乙女座の美しい女性は、筆者が理論の書から、愛と性をテーマにした本を書き出した瞬間から、筆者に命令するようになりました。あなた

は、理論書（甲、乙女座）をもっと書くべきだ。男と女の本なんて、あなたが書くべきではないと主張しました。その時の、醜くくて傲慢な表情は忘れられません。内面のエネルギーは、は虫類の蛇のような毒々しいものがありました。勝手に筆者の理想をつくりあげて、それにあつた行動を筆者がしている期間は機嫌がいいのです。自分の支配欲が満足するからです。勝手に作り上げた理想から離れてしまうと、機嫌が悪くなるのです。甲で乙女座の人は理論と活字が好きです。理論と活字に根源がある支配欲と独占欲が満足しないと怒るのです。

余談ですが、女性の独占欲はもつとも強い邪のエネルギーです。安倍清明の映画にもその様子は克明に描写されていましたが、あれは本当に起こりえることです。

辛で魚座のヤクザの場合も同様だった。あなたの推命理論は精神的（辛、魚座）にすばらしいから、もつともつと拡大すべきだ。講演会などを頻繁にやったらいいと言う。勝手に筆者の生き方を決めて、命令しているように感じたものです。しかし、イスに座ってなにかを聞いても、それで人生がよくなることはないので、講演会などはやるつもりがないと筆者が

言う、怒り出したのです。あなたはそんなことを言っただけでいい。あなたは、こうすべきだと言うのです。辛で魚座の人は博愛的で宗教的ですがカルト的でもあります。

丁で海王星の主婦の場合も似たりよったりだった。あなたは、不幸な谷にいる私を救いだすべきだと言うのです。今の仕事、今の旦那、今の子供すべての現実が気に入らないので、そこから自分を連れ出してくれと言うのです。白馬の王子様（丁、海王星）とも思ったのでしょうか。丁で海王星の女の人は依頼心が強い傾向があります。

■ 十干・惑星別の人間関係トラブル

すべての人間関係のトラブルの根本は、あなたは私の期待したとおりの行動をしないという身勝手な欲求にあります。十干別（日干）に説明してみましよう。

甲の人なら、相手にも知性と言葉による理解を求める。相手が言葉で理解しないと頭悪いと怒る。

乙の人なら、相手にも柔軟性と深い思考を求める。相手が無計画で行動すると馬鹿と怒鳴る。

丙の人なら、相手にも集中力とねばりを求める。相手が注意散漫だと意識が低いと言って怒る。

丁の人なら、相手にも善良さと安定を求める。相手が強烈な意思をもっていると、乱暴な人だと非難する。

戊の人なら、相手にも情感と喜怒哀楽の表現を求める。相手が冷静だと、冷たい人だと言う。己の人なら、相手にも同調感覚と和合感覚を求める。相手が思索的な人だと、感情のない人だと文句を言う。

庚の人なら、相手にも利益感覚と流行感覚を求める。相手が慎重な人だと、行動力がない人と 言う。

辛の人なら、相手にも宗教的な感性と精神性を求める。相手が理想のない人だと、レベルの低い人と馬鹿にする。

壬の人なら、相手にも時代の先読み感覚と勝負感覚を求める。相手がのんびりしていると、怠け者だと言う。

癸の人なら、相手にも幅広い情報収集と知性を求める。相手が裏づけのないことを言うとき、意味不明のことを言うときと批判する。

ホロスコープの惑星別（支配惑星）に説明してみよう。

水星の人なら、相手にも近況を細かく報告して相談することを求める。相手が無口で何を考えているのか分からないと怒り出します。

金星の人なら、相手にも感情表現と好き嫌いを大胆にすることを求める。相手が冷静だと怒り出します。

火星の人なら、相手にも行動力と現状改革をすることを求める。相手が現状維持で保守的

だと 文句を言います。

木星の人なら、相手にも社会や人との積極的な関わり合いを求める。相手が人口の少ない地域 で田舎暮らしを始めると非難します。

土星の人なら、相手にも忍耐と我慢をすることを当然だと求める。相手が飽きつぱいとそれを 避難します。

天王星の人なら、相手にも大衆を超えた考え方と普通ではないことを求める。相手が平凡でいい と言うと馬鹿にします。

海王星の人なら、相手にも理想とロマンに満ちた生き方を求める。相手が現実のことばかり言っ ているとつまらないと思います。

冥王星の人なら、相手にも現状の改革と新しいアイデアを求める。相手がTVやメディアを信 じていると馬鹿にします。

星がある星座に集合している場合は、ホロスコープの星座別を使うこともあります。たとえば、蟹座は人とゆるゆると和合し人の集団の中で生きることが求めるといふように。星座

に関しては、これ以上の説明は省略してもかまわないでしょう。

■期待するという言葉の背後にある身勝手な欲求

さて、話しを元にもどしましょう。すべての人間関係のトラブルの根本は、あなたは私の期待したとおりの行動をしないという身勝手な欲求にあるという結論でした。相手を束縛しようとする欲求は、実は自分の個性の押し付けです。相手に期待するという欲求も、相手に対してこうあるべきだという押し付けです。その期待はまことに身勝手にエゴまるだしです。

親が子供に期待する？これは通常の人間関係をはるかに超えた強烈な親のエゴです。親の個性を押し付けるといふなまやさしいものではありません。親ができなかつた劣等感を子供でウサ晴らししているだけの行為を「期待している」という言葉で子供に伝えるわけです。

自分は学歴がなく苦勞したから、お前にはそういう苦勞をさせたくないから、熟に通わせているんだと言いますが、たんに親の劣等感からくるウサ晴らしです。本当なら、学歴はなくても、こんなにも幸せで面白い人生だと子供に自慢するのが正しい親のあり方です。親は劣等感による押し付けを愛だと勘違いしています。筆者は、我が家に来る子供の友人にたいしては、あなたは新しい時代に生まれた分、親よりも進化した魂をもって生まれてきているのだから、親の言うことは未熟だと思ったほうがいいという内容を教えています。子供はそれを理解します。理解しないのは親のほうです。

人間関係のトラブルをなくそうと思うなら、運命学を使う前に現実の相手を観察することです。しかし、自分の現実を観察できないとそれは無理です。

内面を深く観察できない人は、自分のマインドの反応すべてが間違っていると確信すべきでしょう。たとえば、相手が尊敬できる人だから、従っていくといいことがありそうという感情が沸きあがってきたら、それは間違いです。相手が信頼できないという感情が沸きあがっ

てきたら、それも間違いです。相手が有能な人だという感情が沸きあがってきたら、それも間違いです。相手が無能な人だという感情が沸きあがってきたら、それも間違いです。自分の内面を探索できない人は、すべての感情と感覚が誤っています。経営コンサルタントをしていると、経営者にも自分のことを自分で分からない人が多いことが分かります。だから、社長業なんて誰でもできるものだと思ったほうがいいでしょう。社長をやっている人が偉いなんて、これっぽっちも思っていないけません。思った瞬間にもうあなたは判断を誤るからです。

■慈悲が自然にわいてくる人

自分の中心、自分の魂と触れあうことができる人は、自分と同じように相手の中心を観察することができます。こういう観察が意識的にできるようになると自然に相手が今のような状態になぜなったのかが理解できるので、慈悲をもって相手に接するようになります。慈悲

をもつて、優しくあるいは慈悲をもつて厳しく接します。そういう人は、言葉はきつくても、目は優しいものです。あなたが女性なら、相手の目を見たほうがいい。そうすれば言葉巧みな男性に騙されることはなくなりませう。

だから、自分の魂と触れあうことができる人は、人間関係のトラブルは発生しないものです。魂との触れ合いを経験すると一元的なものを見るようになってしまいます。だから、有能とか無能とかで人を分けられない。尊敬とか軽蔑とかで人を分けられない。好きとか嫌いでも分けられない。正しいとか悪いとかでも分けられない。相手に従っていききたいとか、相手を従わせたいとも思わない。現実には、すべてが同じ事象の裏表、陰陽であり、融合しているということを体験しているからです。

もし、人間関係のトラブルを頻繁に経験するようなら、自分の魂と触れ合うことができずにいる状態で、自分の五感すべてが誤っていると自信をもって確信したほうがいいでしょう。ちなみに、筆者は常に自分の五感や感情が間違っているという確信をもって生活している。

たまたま、1年に何度か魂と触れ合うことができるので、そのタイミングで大きな決断をするようにしていて、これが正しく生きる手法だと思っっていますが、だれに話してもそれを理解しません。

もし、議論で相手を説得したり説き伏せたりしようとしているなら、それは議論しないと
いけない程度に、あなたが魅力的でないということと同じだと思ったほうがいいでしょう。

魅力的な人は、愛の香りがするので、議論をする必要はほとんどないのです。議論は理論
でするものですが、理論はもともとが、戦って相手をコテンパにやつつける道具だとい
ことを知っておいたほうがいいでしょう。

■慈悲をもちたいという経営者

相手から好かれるために、相手から批判されないために、慈悲をもって相手に優しく接したいという大きな欲望をもった経営者がいました。しかし、言葉は優しいが目が冷たい。目で相手を批判し、相手を馬鹿にしているのがわかります。だから、社員からも信頼されません。いつ、首になるかわからないから、自分のキャリアを積むだけに仕事を利用する社員ばかりです。取引先からも信頼されません。失敗の原因を、社員が無能だからという言い訳をつい言ってしまうからです。

慈悲の心もないくせに、批判されることを恐れて、無理に慈悲の振りをしても周囲の人間は簡単にそれを見破ります。顔を見て、目を見て、言葉のちよつとしたはみから感じをとってしまいます。24時間、一瞬たりとも、気をぬかないで慈悲のある振りをできる人なんていません。反動は、家に帰って、子供や妻に出してしまいます。レストランのウエイトレスに出してしまいます。横柄な態度になつて、妻や子供が萎縮しています。風俗では、女性に執拗に要求したりします。

真に慈悲的な人は、勝手に慈悲の気持ちがわいてくるのであって、それでしか生きていけないという状態の人です。なぜ、勝手に慈悲の気持ちわいてくるのか？ それは24時間を意識的に生きているからです。ほとんどの人は、無意識に心の習慣のままに、同じことを繰り返しながら生きています。

■意識的に生きる道具が運命学

意識的に生きる、無意識に生きるという意味を例をあげて説明しましょう。以前、SONYというロゴのはいつたCDRでソフトを作成し送付したところ、SONYから商品が届いたけれどいったいおたくはどうなっているんだというクレームがありました。無意識にSONYのロゴをみた瞬間に、SONYから送られてきたと思ったわけです。宅配の伝票にはフォーチュンソフトが発送元と記載されているのに。

古いソフトを使っていたら、ノートパソコンバッテリー不足になったというクレームがありました。実際は、2日前に掃除をしたとき、掃除機で電源コードのまわりを掃除し、そのとき、集合コンセントのスイッチがOFFになっただけだった。

最近当社の商品をアマゾンから買ってくれたユーザが、今からそちらに行きたいが時間は取れるか？という電話がありました。今、どちらにいますか？と聞いたら、愛媛の松山にいますと言う。松山から北海道まで飛行機で来るのですか？という相手は混乱していた。どうやら、アマゾンにあった在庫が前の愛媛の住所が記載されたパッケージだったので、愛媛だと思いきんだらしい。では、なぜ北海道の新しいTELが分かったのか？と聞くと、移転先のTELがNTTの自動案内で流れたからと言う。愛媛は08から始まるTELだ。北海道は01から始まるTELだ。しかし、無意識に生活しているとこの違いから、住所も移転したというふうには考えないのだ。

毎月成田空港から海外出張に行っている横浜に住んでいるユーザが、田舎に帰っていた

妻と子を迎えにくくために車で羽田空港に向かっていた。しかし、高速道路から外を見るとデズニールランドが見えた。そこで気がついた。無意識に成田空港に向かっていたのである。

我々の生活の90%が無意識である。

ためしに、意識的に怒りの感情を発動させないように生活してごらん下さい。3日もたたないうちに、怒りの感情が沸いてくる現実にあきれることでしょう。ためしに、セックスのことを意識しないように生活してごらん下さい。3時間もたたないうちに、それはできない現実にあきれることでしょう。

時事問題の見方にも意識的か無意識的かでその反応が随分異なってきました。ジャパンプレス社のジャーナリスト、山本美香さんが、8月20日、シリア北部のアレッポで9発の銃弾を浴びて非業の死を遂げました。同行していた内縁の夫、佐藤和孝は、「銃撃したのはヘルメットをかぶっていたので政府軍だとすぐ分かった」と証言しています。これを聞いた瞬間に、

意識的な人は8年前と9年前の事件との関連から、真実はそうではないと分かったことでしょう。山本美香さんのカメラには、「ヤーパン、ヤーパン」と叫ぶ男の声が入っています。だから日本人を狙い撃ちにする必要があったのです。日本人の殺害は、シリア政府にとつてなにもメリットはないのです。

2004年10月に、ブッシュ元大統領がイラク侵略をしたときに、日本人のバックパッカー、香田証生さんがイラクのバクダッドで、ザルカウイを名乗る犯行グループに拉致された後、殺害されました。2003年11月に、日本大使館員2名を乗せた四輪駆動車が、イラク北部のティクリート付近で襲撃され、2名とも亡くなりました。運転手は重態。しかし、証拠品の車は日本には返却されませんでした。米軍が襲撃したという情報がネットには流れました。このあと、イラクはけしからんとメディアが大衆を洗脳して、小泉元総理が自衛隊の派遣を決定しました。実際は、イラクには大量兵器はなく、ブッシュ元大統領は逮捕されるべきだという世論がアメリカでは高まっています。

今回も、シリアに対してなにもしない日本に対して、日本人ジャーナリストを犠牲にすることで、日本人のシリアに対する憎悪の炎を焚き付けようとしたのではないか、と推測できるわけです。

意識的に生活することがどれだけ難しいか、分かったでしょうか。自分がいかに無意識であり、変化しない心の癖のために、おなじサークルを回っているだけということを自覚するのは、ショックキングなことです。エゴがあると、自分だけはそうではないと思うはずですから、第一歩目が一番難しいのです。

一秒一秒を意識的に生活していると、とても繊細になり、敏感になってきます。だから、他人の苦しさや悩みも手にとるように分かってしまうのです。その結果、慈悲的に接するしかできないようになってしまふわけです。優しいだけが慈悲ではないのです。短い時間で、その困難を越えないと大きな不幸が来ることも分かるので、ときには冷たく厳しく接することもあるのですが、そういうときでも目は優しいものです。恨みの光は目にありません。

生活の現場で運命学を使う

運命学を常に使えば意識的になることができます。相手との会話のなかで、怒りが沸いてきたら、その怒りの元は、自分の考えとは違う、こうあるべきだという欲求ですから、自分の考えとはいったい何なのか？ を運命学という道具を使って探ることで。

四柱推命を使うなら

- 甲的考え（相手の感情を軽蔑する気持ち）なのか、
- 乙的考え（相手の打算を軽蔑する気持ち）なのか、
- 丙的考え（相手の繊細さを軽蔑する気持ち）なのか、
- 丁的考え（相手の不道徳を軽蔑する気持ち）なのか、
- 戊的考え（相手の頭でっかちを軽蔑する気持ち）なのか、
- 己的考え（相手の理屈っぽさを軽蔑する気持ち）なのか、

庚的考え（相手のへりくだった姿勢を軽蔑する気持ち）なのか、
辛的考え（相手のしつこさを軽蔑する気持ち）なのか、
壬的考え（相手の煮え切らない態度を軽蔑する気持ち）なのか、
癸的考え（相手の情感に振り回される姿勢を軽蔑する気持ち）なのか、

というように観察してみるのです。さらに、ホロスコープも同時に使ってみるなら

水星的考え（相手の会話力の不足を軽蔑する気持ち）なのか、
金星の考え（相手の美に関する感性の不足を軽蔑する気持ち）なのか、
火星の考え（相手のやる気のなさを軽蔑する気持ち）なのか、
木星の考え（相手の精神性の低さを軽蔑する気持ち）なのか、
土星的考え（相手の衣食住という現実生活を無視した理想を軽蔑する気持ち）なのか、
天王星的考（相手の他人と同じようであればいいという考えを軽蔑する気持ち）なのか、
海王星の考（相手の目標設定の低さを軽蔑する気持ち）なのか、

冥王星的考（相手の世の中の裏面を見れない洞察力の低さを軽蔑する気持ち）なのか、
というように観察してみるのです。自分のことが分かったら、その技法を同じように他人の
観察にも適用すればいいのです。

■生まれ変わりはあるか？

キリスト教や西洋の宗教では生まれ変わりはないことになっています。いっぽうで東洋の
仏教やヒンズー教では生まれ変わりはあることになっています。どちらか正しいのか？とい
う議論は、運命の神にとっては、まったく無関心のことです。運命の神は、今現在のあなた
をどうやって進化させようか？というテーマにだけ関心があるのです。どっちが真理であっ
たとしてもそれを知ったからといって、あなたが今日から変わる保証はどこにもないことを

運命の神は見抜いています。いやおそらく、知っただけで、また新しく知りたいたいが増えるだけということ運命の神は確信しているのです。

2000年前は、東洋は豊かだった。飢えはなかったのです。王族達が大衆を賢く支配していた。食べるもの、美しい異性、快適な住まい、なんでもあった。そういう環境に住んでいる人を変えようと思ったら、どういう知恵を運命の神は使うでしょうか？ 物質的に豊かな人は、人生に飽きていることが多い。退屈なのだ。退屈こそが最大の悩みであるから、もう一度おなじような地球人を経験したいとは思っていません。だから、進化しないと何万回でも生まれ変わるぞといって脅かしながら、大衆を引っ張っていく必要があったのです。運命の神がただ一つの真理を使うなんていうことはありえません。あなたを幸せに導くためならあらゆる方便を使いこなす狡猾な存在であることを運命の神と対話した経験者は知っています。

いつぼうで2000年前は西洋は貧しかった。飢えに苦しんでいたのです。そういう大衆

に何万回も生まれ変わると言ったら、もう勘弁して欲しいというでしょう。飢えはもう十分だ。こんな経験を何万回もしたくはないと言うだろう。だから、生まれ変わりはなく、1回きりだから、1回の人生を辛抱して頑張つて生き抜けと大衆を率いていく必要があったのです。

■運命の神は机上の理論には無関心

理論が正しいとか正しくないという議論は運命の神は、無関心です。あなたが今からどう生きていくかだけに関心があるのです。どの占い技法が正しいのか？どの流派が正しいのか？という発想には運命の神は無関心です。

あなたを変容させるためなら、もしもあなたが理論で変容する可能性があるなら、運命の神はあなたが真理だと信じやすい理論を捏造してあなたの前においていくことでしよう。

実は筆者も30年前にカルト教団に入っていました。そして青年部の幹部まで昇格しまし

た。当時はそれが真実だと確信したからです。ここでは徹底して精神世界を訓練されたのです。そのおかげで運命学の探求をする能力が啓発されました。人間を観察する感性も啓発されました。能力が啓発された結果、そのカルト教団のインチキも見抜くことができ、幹部と大ケンカをしてその組織を飛び出したわけです。

教祖が死亡しましたが、子供達はその権力争いでこれから何十年もケンカすることでしょう。そして宗教で飯を食っている幹部達は自分に都合のいい子供を選んでサポートし続けることでしょう。教祖の自宅の金庫には常に何千万もあって、子供達は小さい頃からそれを使いたい放題の生活を経験しているので、それを捨てたくはないのです。ただ、恋愛に生きた女性の子供（金星が支配星）は、教祖と絶縁して他国で幸せに暮らしています。

そんな若い頃の経験のため今ではどんな霊能者と対面しても3分もあればその奥底を知ることができません。カルト教団時代に何百人もの霊的現象を観察してその根源にあるものを知っているからです。今まで会った霊能者で、社会の役に立っている霊能者は1人もいなかっ

たです。こういう訓練をしてくれたカルト教団と運命の神には感謝しています。

運命の神は、カルト教団でさえ開運の道具として使ってくるまことに狡猾な存在です。だから、人知で考えることなんて、役に立ちません。すべてを受容して運命の神に委託したほうが、人生はうまくいくのです。

運命の神が触れたくない人というのはお金をくれる人に都合のいい理屈ばかりをTVで言って、なにも責任をとらない評論家のような連中です。口先ばかりで実行をせず、責任もとらず、自分の中心を無視して自分にお金をくれる人に媚びて生きてる人は運命の神でさえ導くことができないのです。

■運命の神との対話

運命の神は、全部を託する勇氣のある人を待っています。だからあなたが本気で勇氣をもつてあなたの運命の神に質問するならば、運命の神はあなたの居場所を教えてください。運命

の神は哲学者ではないので、あなたの質問が結婚したいけどできるか？という質問なら、結婚についてはなにも説明しません。運命の神は必ずあなたに働きかけて事件を発生させます。

とんでもない詐欺師のような異性との出会いかもしれません。素敵に見えて借金だらけであなたを騙す異性かもしれません。つまらない異性に見えてあなたを愛する異性かもしれません。そんな事件を体験することでああなたは変化します。すると、あなたは異性を学習し愛を学習し、結婚を理解するようになります。だから、結婚とは何か、結婚できるかどうかを運命の神はあなたに語ることはありませんが、あなたが自分で答えを探せるように変化させてくれるのです。

こういう運命の神の発想は、経験しないと理解できないものです。だから、理解できなくて当然です。

問題は、あなたがその運命の神の働きかけを受容するかどうかです。多くの場合、逃げて

しまいます。だから、運命の神もそれ以降は働きかけることができないのです。運命の神に働いて欲しければ、なにが起こっても受け入れてそれを本気で経験し自分を変化させることです。未来になにが起こるかかわからないから、不安を感じるといふレベルでは運命の神は動いてくれません。運命の神とは恋愛関係にならないといけません。なにをされても恋する決意です。そうすると、あなたに一番ふさわしい事件（気持ちのいい事件ではないことが多い）が勝手にやってくるのです。その事件を通過するとあなたは、変容していくのです。

この運命の神と対話は愛の言葉でないと通じません。つまり、理論は通じないのです。もともと理論、ロジックというのは相手を攻撃し自己を正当化するための道具であるからです。闘争的であり暴力的な性格の言葉が理論です。だから、運命の神は愛の存在だから、暴力的な性格を帯びている理論を嫌うのです。愛の言葉とは受容である。

この受容のレベルに到達するのは難しいのです。なぜならば自分の感性とか感受性とか感情といったものはすべて過去の経験のゴミが蓄積されたものであるから信頼できるものでは

ないという確信をもたないといけないからです。

受容のレベルに到達したいなら、運命の神に質問をどんどんしたらいい。そうすれば運命の神は、自分でその答えを探せるあなたにあなたを変容させてくれます。ただし、あなたにとって気持ちのいい事件は起こりません。あなたの今のゴミだらけの感性や感情では絶対に理解できないことや、間違った心が痛む事件であることが多いのです。間違った心を思い切り使わせる事件を経験しないと理解にならないからです。運命の神はとても愛が深いので、あなたの偏見、思い込み、先入観、洗脳されている感性、こういったものをきれいに掃除してくれるのです。

多くの人は、人間関係のトラブルや心の痛い事件を体験しても、他人への恨みだけが残ってしまい、他人はこうするべきだとケンカごしになつて議論をしたがる（本当は自分の個性という名前のエゴを押し付けているだけ）だけで、自分を変化（自分の個性を変化させてもいいという勇氣）させようとは思わないものです。筆者は昨年二十人以上の女性と婚活で交

際をしていました。ほとんどが離婚経験者でした。前の夫がお金にだらしがなく、お金にたいし異常に敏感な人は預金通帳や証券会社の資産目録などを見せろと要求されたこともありましたが。しかし書類を見せてもまだ不満げのようでした。どこまでも疑いをもつからです。前の夫がDVで殴られた女性は、ちよつと考え方のおかしい部分を指摘しただけでぶるぶると震えていました。前夫が愛人を作つて苦労した女性は、しつこく筆者の交際した女性を知りたがり携帯の履歴も見たがりました。全部見せても満足はしません。どこまでも信じられないのですね。離婚という経験で、なにかを学習して人格が成長しているという思いは見事に裏切られました。全員が恨みになつて、自分の品格を卑しくしていました。

あなたを襲うすべてのトラブルは、あなたを変容させるために運命の神が仕組んだものと受容しなければなりません。もし、受容しなければ、あなたは他人や組織や社会や国や政治家や役人など、自分以外の誰かを変えようとしています。こうなつてしまつては、もう運命の神はあなたの手を触れることはないのです。

■成功の法則は欲望を変化させること

どうやったらお金を得ることが出来るか？どうやったら異性を獲得することが出来るか？こんな成功ノウハウが世に氾濫しています。しかし、だれ一人としてそれで成功して満足した人はいないのはご存知でしょう。次から次へと、よくもまあ、これだけ表現や技法を変えながら、成功の法則がバーゲンセールのように出回るものと感心します。こうやったら投資で簡単に儲かる？FXで簡単に儲かる？こういう類のものは、個人投資家が売買を繰り返すおかげで、証券会社が最後は手数料で儲かるようになっていくだけの広告目的であることに気がつかないのです。

この商品をあなたが扱えば、あなたもビジネスで成功するというネットワーク販売がありますが、やっている人達を観察してごらん下さい。みな自分で自分を管理できないので、他

人に管理してもらおう必要がある人達ばかりです。だからネットワークをくんで、相互監視するのです。それが心地よいと感じるのは劣等感がある人だからです。ネットワークビジネスを発明したのは西洋人です。自己管理ができず劣等感を抱いている人の心理をよく研究して、このビジネスモデルを発明したのです。そういう洞察力のある人の元にお金は吸収されていくのです。

あなたが若い人なら、無茶苦茶に仕事をしてお金を得ようとする経験をするべきです。そして、その結果に自分で結論を出すことです。もし、あなたが中高年でまだ自分は成功していないから努力すべきだと思っっているなら、無茶苦茶仕事をして早く結論を出さないと、魂と触れ合うことのないまま、人生を終える可能性があります。足腰が不自由な老人になって、まだお金や異性に対する欲求が満たされていないなら、それはもう醜悪です。早く生まれ変わって再度、生きるべきでしょう。

欲望という存在は、行動しなかったらどんどん大きくなっていきます。行動しなくても欲

望は存在して成長していきます、行き過ぎればただの幻想になります。しかし、行動すれば欲望は変化します。行動すればするほど、欲望は変化します。中高年で今まで、一生懸命に行動してきた人は、欲望の内容も変化しているはずで、欲望の無駄、欲望の愚かさ、欲望の先には何も達成感がないことを経験しているはずで、つまり、欲望のままに行動することによって、欲望を理解してきているはずで、

中高年になって、ある程度の資産もできて将来にそんなに不安がない状態にまで努力してきた人はおそらく次の段階に行く準備ができています。つまり、お金が欲しい、異性が欲しいという動機と欲望でどんなに頑張っても、得ることはなにもなく、新しい発見もなく、満足感もなく、不幸だけがやってくるという体験をしてきているからです。

そこまでの状態になっているなら、話しは早い。若い頃の強烈な欲望が失せてしまっているだろうから。それは、元気がなくなっただけのことではありません。自己中心の欲望が発生しなくなっただけのことです。そういう人は、若いときと同じように、他人から

見れば一生懸命に仕事をしているかもしれないかもしれませんが、内面はまったく違うはず。欲求の次元が異なります。結果を気にしないから今を楽しめるし、遊べるのだ。緊張がないのです。緊張とは目標があつて、そこに到達しなければならぬという束縛があるから、つまり未来を見るから発生するものです。今の瞬間だけに集中して楽しめる人は、未来に期待するという欲求がないから、リラックスしている。だから、結果的に成功してしまふ。

プロのスポーツの世界をみて御覧なさい。緊張して結果を出せる選手がいるでしょうか？ 一人もいないはず。みな如何にリラックスして緊張をとるかだけを考えています。リラックスしたほうが、動きが鋭くなるからです。お金儲けも、異性の獲得も同じです。欲望をギリギリさせて緊張している状況では勝てません。

■インスピレーションはリラックスしているとやってくる

筆者の場合は、運命の神との対話が正しくできていくかどうか？という観点から仕事をしています。商品を作っても、まったく売れなかった場合は、運命の神との対話が失敗した結果と判断しています。自己の欲求で洞察力が鈍った結果だと判断するのです。

たとえば、今から20年前は、ビジネスマン向けに、「戦うビジネスマンのための四柱推命」というソフトを発売したことがありました。ちょうど、動物占いがブームになり、個性学やバーズデイサイエンスや、いろいろなものがヒットした時代です。流行の先端を狙って商品を開発し、いろいろな雑誌の編集者にも会って、雑誌の特集にしてもらった。パソコンショップの店長も応援してくれました。しかし、結果、1000本製造して、990本が返品になってしまった。売れなかったのです。メディアに沢山露出し、パソコンショップが応援して、売れなかったというショックは大きかった。このとき、流行に乗った商品を開発するという目的そのものが間違っていたと確信したのです。返品になった商品を、1つ1つ、ばらして、ゴミ袋につめる作業を1日数時間かかって1週間やっていました。その作業の間、ずっと誤った原因を考えていました。自分の欲望のために洞察力が失われた結果だと知りました。

それ以来、2度と、流行を追うことはなくなりました。他社の製品を気にすることもなくなりました。

それ以来、運命の神は自分に何を求めているのか？自分の内面と会話することだけに集中するようになったのです。自分に都合が悪いことが起こってもそれを受け入れないといけないので、地図なしで大海原を公開する船の船長になった気分です。そして、おそらくこれが運命の神からのメッセージだろうと思ったら、それを実行してみるのです。結果をみて、それが正しかったかどうかを判断すればいいのです。

ソフトウエアの開発よりも、このような書籍の出版に力を注ぐようになったのも、運命の神との対話の結果です。「運命学大全」という書籍がその試金石となったわけです。これが売れないようなら、筆者の洞察力はまだ曇っているはずだ。自分の考えと感覚は全てが間違っているはずだ、と思って販売してみたのです。これ以上の本は開発できないので、これが売れないなら、2度と出版はするまいという決意で結果を運命の神にゆだねてみた。そして、

ソフトの開発よりも、ノウハウを伝える教材のほうに力を入れるという運命の神との対話は、正しかったことは、販売実績が証明してくれたのです。

運命の神と遊ぶ

運命の神との対話も最初は真剣勝負だった。自分が生きるか死ぬかという勝負です。しかし、最近はそのを遊べるようになってきました。遊べるようになるが発想がどんどん豊かになってきます。北海道で開運のためのフォーチュン牧場を創立したのも、そういう運命の神との対話の結果であるし、この書籍を書くようになってきたきっかけも運命の神との対話の結果です。

これから先のビジョンは？とよく聞かれますが、それは常に運命の神との対話を意識していれば勝手に、頭に沸いてくるものです。なにも考えなくてもいいのです。考える時間があつたら牧草地に生えている雑草を抜く作業をしたほうがいい。雑草を数時間もかけて毎日抜い

ていると次のビジョンは勝手にやってくるものです。勝手にやってきたビジョンを、実現可能かどうか？はたしてそんなニーズが市場にあるのか？を調査していくと、なるほどなあ、こんな発想があったのかと自分でも感心することが多いので、地図のない船に乗っていることが楽しくさえ感じられるものです。

しかし、運命の神との対話の結果、得られるビジョンを他人に話しても、理解する人は、1%もないものです。前例がないからです。それをやっている人がまだいないからです。海とも山とも分からないことをなぜやるのか？というのが普通でしょう。

99%が否定して反対します。親はもちろん反対します。親戚も反対します。兄弟は知らんぷり。友人も見えて見ないぷり。配偶者は、またわけのわからないことが始まったと言うだけです。しかし、ビジョンが見えてくると、環境がそのビジョンを実現しやすいように変化してくるのです。だから、だれにも相談する必要はないのです。相談する相手は自分の内面だけで充分足りるのです。

■性欲は罪なのか？

人類は太古の昔から性欲のエネルギーがもつとも最強であるように設計されています。動物達も同じです。性欲のエネルギーの根源はなんだろう。それを本気に運命の神にといかけてみると良い。あなたの質問にたいして回答はないが、自分で回答を探せる相手に出会わずです。

肉体関係におぼれることもあるでしょう。いろいろな体位をためて喜ぶこともあるでしょう。相手の歓喜する姿をみて興奮することもあるでしょう。しかしやがて、そういう肉体の結合と肉体の歓喜も飽きてきます。そうすると、結合というのは表面的なものであって、内面的なエネルギーの交換こそが性欲の根源だとやっとなるときがくるものです。ただし、この真意は経験しないと分からない。

変容を受けられるだけの心の余裕が必要です。性の行為のときに性急さはないでしょうか？忙しい動きではないでしょうか？抑圧された行為ではないでしょうか？罪の意識はないでしょうか？ゆったりと相手のすべてを受け入れる心で行為をしているでしょうか？自分のすべての醜い部分をさらけだす心で行為をしているでしょうか？数時間の行為をまったりと楽しんでいるでしょうか？余裕のある心の状態のときだけ、人は深い感性を得ることができるので忙しい行為ばかりでは百万回行為をしようとも意味がありません。

内面的なエネルギーの交換をするようになると自分の内面が変化するようになってきます。両性具有になってくる感覚を味わうのです。そう、これこそが性欲の根源の奥深くに隠された欲求なのです。しかしこの真意は経験しないと分からない。経験すると異性にたいする姿勢がいまままでと違ってきます。肉体への欲求よりも、内面のエネルギーの交換を楽しむように変化します。そう、あなた自身が変化するのです。

ここまでくると、もう性欲に罪悪感を感じることはなくなります。欲望に影響されること

もなくなります。しかし、この真意は経験しないと分からない。

真理とか真実というものは、知るものではない。経験するものだからだ。

■道徳的な人は反社会的になる

道徳的で立派な人でありたいという欲望をもっている人がいます。しかし、この社会自体が道徳的であると感じている人はおそらく皆無でしょう。公務員が利権をにぎり、自分達の利益のためにやたらと仕事を増やし、首にならないからと言って、土日は遊びほうけている姿を大衆は見ています。警察も正義の味方ではないことは、警察につかまった人は体験しています。自分達の点数かせぎのために、行動するのが警察です。だから、サリン事件でも誤認逮捕があったわけです。社会そのものが不道徳なのに、そのなかで真に道徳的であつたら

どうなるか？

警察官でありながら、裏金作成の現実を暴露した愛媛の仙波氏がいたが、警察組織のなかでは反社会的分子とされ、左遷された。仙波氏の親戚などは、臭いものにフタをするように縁を遠ざけた。仙波氏の子供達は、職場で嫌がらせをされた。つまり、道徳的であろうと思っただけいるといった宗教とみなされるのです。2000年前のイエスもそうだった。神は教会組織にだけいるといった宗教という名の権力組織を批判したために、はりつけになっただけです。中世の魔女と言われ、火あぶりにされた女性達も、同じです。魔女達は、宗教を利用して大衆を支配する構図を見抜いたために殺されたのです。

愛媛のポンジュースが実は、愛媛産のみかんではないことを農家は知っています。しかし、それを公開しません。公開したら、村八分にされるからです。だから、おとなしくしています。筆者が愛媛に住んでいた頃にそれを知ってインターネットで公開しようとする気勢のある農家に働きかけたことがあったのですが、青い顔をして拒否され、縁を切られてしまいました。

地元では人徳があるという評判の農業経営者だったのだが・・・

道徳的であろうと思つたら、社会から殺されるのは2000年前からにも変わっていない。アメリカのケネディ大統領がなぜ殺されたか？中央銀行を特定の国際金融資本家の一族から、国家に取り戻そうとしたからだ。フセイン大統領がなぜ殺されたか？石油の販売を、ドルではなく他の通貨でも売ろうとしたからだ。歴史は道徳的であれば、社会から殺されることを証明しています。

なのに、あなたは道徳的であろうとする欲求が本当にあるのでしょうか？もし社会から受け入れられていて道徳的だと見える人がいたら、それは間違いなく偽善者です。偽善者だけが、道徳的に振る舞うことができます。不純な社会にあわせられるざる賢い人が道徳的だと評価されます。しかし、ざる賢い人は常に本心を裏切らないと生きていけないので、心は暗く閉ざされていて、オープンではなく、敵とか見方という観点から人を判断します。そんな人に、運命の神は触れることができません。だから、道徳的に見える人は、必ず運勢が悪

くなるのです。

真に道徳的な人は、不純な社会にあわせられないので、メディアからは批判され、警察から犯罪者扱いされるものです。だから、検察と戦って刑務所にはいった人は道徳的で純粋な人です。そういう人の心はゴミがなく純粋なので、運命の神が触れることができます。だから、運は良くなります。他人からの目では理解できない幸福感を得ることができるのです。

さて、ここまで説明して、道徳をあなたの子供に教えたいでしょうか？ 学校であなたの子供にそんな程度の道徳を教えられてあなたは平気でいられますか？ 筆者は子供がそうやって洗脳されていくのが恐ろしい。だから、自宅で家学として、本当のことを教えています。江戸時代までは、そうやって親が家学として子供を教育した伝統があったのです。今は、社会を知らない学校の先生や熟の講師に委託している親が多い。

■真に宗教的な人

真に宗教的でスピリチュアルな人は一元的なものごとをみるものです。つまり、世の中の悪も善もすべてがおなじ神聖なものとして理解しています。ある部分だけ神聖である部分は非神聖というようにものごとを分けません。浮気も本気もない、すべてが同じに見えるものです。24時間すべての時間を一瞬一瞬を意識して宇宙のシステムとどのように連動して現実が動いているのかを観察しているからです。

あつちの流派がいいとか占星学のほうがいいとか四柱推命のほうがいいとか、そんなことは真にスピリチュアルな人は言わないものです。分割思考は、運勢の悪い評論家達にまかせておけばいいのです。

無神論者もまた一元的である。すべてを物質としてみなしているからです。そういう意味では無神論という宗教だといえることができます。

しかし、世の中の宗教者はほとんどが自分が認めるものだけは宗教的であり神聖であり正義であるが、自分が認めないものは非宗教的であり非神聖であり非正義であると言っています。つまり、分割思考の人が宗教的な人と言われるのです。しかし、自分では帳尻をあわせているつもりでも、最後は分割の帳尻があわなくなって破滅するものです。カトリックの神父、お寺の坊主、新興宗教、などには精神がいかれた人が多いのも当然なのです。

自分はそうではないと思っている人でも、日曜日だけ教会に通って宗教をやっているつもりになっている人などその典型です。真に宗教的な人は、ビジネスをやっても、スポーツをやっても、風俗街で遊んでも、高給クラブでホステスを口説いても、すべてを宗教的に神聖なものとして理解するので、罪悪感がないし、心底明るいものです。

だから、世の中の道徳や倫理などは決して宗教的でもないし、神聖なものでもないのです。

倫理や道徳や説教じみた常識にあなたの欲求を束縛されてはいけません。性欲の強い人に、性欲は罪だからそれを抑えなさいという人がいるが、あなたの性欲はあなたが作りだしたものだから（本当は宇宙が作ったものだ）それはいけないことだと言います。無理矢理抑え込むと、ますます潜在意識で欲求が強くなり、負い目が生まれ、自分はダメな人間だという罪悪感が生まれるだけです。罪悪感が生まれたら、もう宗教ビジネスの獲物です。日本の禪的な教えを例外として、すべての宗教組織や宗教で食べている人は、人の罪悪感を刺激することで利益をあげているのです。

運命学も人の罪悪感を刺激するように、劣等感を増幅させるように理論を構築しています。宗教組織が占い屋を開くと繁盛する理由は、人を恐れさすと人はお金を出すことを熟知しているからです。

最悪なのは有名人や政治家が社会の目を気にして性欲を抑えることです。異性への性欲を抑えた結果、同性愛なら問題ないだろうとへんな方向になっていく人が多いのです。TVに

頻繁にでてくるような政治家などは、そういうリスクを常にかかえています。

■道徳と倫理と運命学との関係性

道徳や倫理というのは自分と他人との間にあるものです。だから自分がどう生きるかということにはまったく使えない道具であることに気がついていてしょうか？ 無人島に1人で生活している人には道徳など不要です。

しかし、運命学は他者と自分との関係の間にはありません。自分がどう生きるか？という道具だからです。だから運命学を使うときに、自分はどう生きるか？ 自分は何者か？という問いかけをしなければ意味がありません。他人との間に、運命学を使いたくなるのは、あなたが自分の内面を観察できていないからに過ぎません。

もし運命学を使って他人を診断する場合でも目的は同じです。その相手が本当はどのよう
に生きようとしているのか？それを知るためだけに使うものです。占い業界では相性診断が
人気です。あの人は自分のことをどう思っているのか？という他人からの評価を気にする診
断も人気があります。いずれも、運命学など必要のないテーマであることに、大衆は気がつ
かないで一喜一憂しています。

自分がどう生きるか？を探求している人は、相性など気にしません。相手がどう生きよう
としているのか？相手の魂との会話を楽しむからです。自分がどう生きるか？をまったく探
求する気がない人だけが、相性診断などをやりたがりません。そして、現実には相性診断をやり
たがる人は、どんな人ともうまくやっていけないのです。

会社の経営者も社員の診断をしたいという動機で運命学をやりはじめる人が多いのです。
しかし、実際にそういう経営者と会ってみると自分のことも自分で診断できない人がほとん
どでした。自分のことが分かっている人は、自分の魂に触れた経験があるから、それと同じ

ように他人の魂にも触れることができるのです。しかし、自分の魂に触れたことのない人が、他人のことなど分かるわけではないのです。自分の管理方法がそのまま他人の管理方法にもなるというのが人事管理の第一歩ですが、その第一歩さえ理解していない経営者があまりにも多いのです。

自分の天賦の能力と個性を探求し、それを確認しながら生きている人は他人の評価など意味がないので気にしないものです。

まとめると、運命学は自分の中心を知る道具であり、他人からの反射の蓄積である心を知る道具ではありません。自分が何者なのか？自分の魂と内面に触れたら次は他人の内面と魂に触れる道具として使えるのです。自分のことがわからない状態で、他人のことが分かるような魔法はこの世に存在しないのです。

■死ぬのが怖い老人の心理状態

80歳を超えてもまだ死にたくないと言って、健康診断を受ける老人が多いのです。死んでいく際にも「まだ」死にたくないと言いなから、死んでいきます。なぜ80年間も生きていて、まだ死への恐怖があるのでしょうか？

それは生をきちんと生きていないからです。生に満足したことがないからです。愛と美を味わったことがないからです。本当はこんな人生ではなかったという恨みがあるからです。愛への欲求が満足していないからです。自分は満たされずに死んでいくと恐れているのです。自分の人生はまったく不本意だった。だからいつ死がくるのか怖くてしかたがないのです。

道徳的でなければならぬと思つて、善人ぶつて生きてきた人ほど死への恐怖が強いものです。犯罪を犯さず愛人もつくらず、まじめに生きてきたと自負している人が、まだ愛への欲求が満たされていないと言つて弁護士に性的な嫌がらせをするなどして醜い姿をさらけ出しています。真面目に生きてきたはずなのにまったく満たされていないまま死ぬのは嫌だと

思つて、最後になつてようやく欲望をさらけ出しています。

そういう醜い老人の心を形成するものは、満たされていない愛への欲求、満たされていないお金への欲求、満たされていない美への欲求が何十年も蓄積されて腐つた状態のものです。

一瞬でも本当の愛を全面的に味わつた人、本当の美を全面的に味わつた人は、死を次のステップにいくための階段として理解しています。だから、全面的に生きた人は、死をお迎えが来たといつてお祝いするのです。

現代の人は、打算的で全面的に愛したり愛されたりすることが少なくなっています。ベッドの上で愛し合っている間でさえ相手の反応を計算しながらマニュアル通りにやっている場合が多いものです。全面的に愛し合えば、全面的に憎みあうこともあるというのに、それを避けるようとはしません。

■国際結婚ビジネスで星平会海を使用

筆者はフィリピン女性との国際結婚ビジネスを十年前までやっていました。国際結婚は結婚したあとに女性が逃走するとか、男性のほうが女性を風俗で働かせるとか、諸問題があるので、必ず希望者の自宅や会社まで行って、しつこく面接をしていました。そのときに、星平会海運命学を使って相手の本音を察知していました。事例をあげてみましょう。

70歳の方の関西に在住の男性からお見合いをしたいという連絡がありました。経営者ということで会社のHPも事前に調査してみました。ソーブランドなどの風俗店を数多く経営していることがわかりました。空港に到着すると、白いベンツが待っていました。運転手だけで本人はいませんでした。自宅まで行って自宅の敷地をみると、ドーベルマンが数頭放されていました。自宅は広いお屋敷で、熊の剥製や鹿の剥製などが飾ってありました。本人に会うと、事前に自分がカタギではないことを知っておいてほしかったので、HPもお知らせ

しておきましたと言います。しかし、もう引退して今は風俗の事業に専念していると言います。

奥さんもいるのですが、一緒に住むのは嫌だと言って出て行ったそうです。なぜか、その場に銀行マンがいて、暗い顔をしてずっとなにかをお願いごとをしているので本人との会話を盗み聞きしていました。どうやら奥さんが銀行から勝手に数億円を引き出して、それを持って悠悠自適の生活をしているらしく、勝手に引き出したときの銀行の担当者が、その銀行マンだったのです。支店長からはその担当者を首にすることでけりをつけたいらしく、銀行マンは無心に来ていたのです。この銀行マンにどういう態度を示すかで本人の性格が察知できると観察していました。彼は無口でした。なにも言わず、あんな勤めて何年になる？とか妻子はいるの？とかぼつりぼつりと話しますが、とても冷たい雰囲気でした。その銀行マンは4時間くらいいて、うなだれて帰っていきました。

次に自宅を隅々まで見てまわりました。なにかの映像を常時うつしているカメラが10台くらいありました。これはなにかと聞くとソープランドの会計場所なんだそうです。いちば

んトラブルが多い場所なので、常時これでチェックしているのだそうです。なにをチェックしているのかと聞くと、従業員のネコババをチェックしているのだそうです。人を信用しておらず、最先端の技術を使つて、自分は自宅に設置してあるアスレチック機器で運動しながら、カメラを見て監視しているのだそうです。経営者としては成功し、銀行預金も何十億もある人ですが、だれも信用できない環境で生きていくのは辛そうでした。

女には不自由したことがないと彼は言います。そのときも実際に自宅にはお手つきのお手伝いさんがいました。しかし、しょせんは金で買われた女です。心が通じ合える友人は一人もいないさびしい老人に思えました。

四柱推命でみると庚寅でした。あの冷静で冷たい雰囲気、お金の出入りに厳しいのは庚が充分に活動していると判断しました。傷官も多いのですが、最先端の技術を導入し合理化をはかっているのを見て傷官も充分に活動していると感じました。宿曜経でみると尾宿の戦う武人ですから、そのまんまです。紫微斗数推命では、命宮に廉貞星と貪狼星が入っていて冷

静で貪欲なのはそのまんまです。占星学で見ると、物質欲を意味する牡牛座に星が4つも集中しています。つまり、ちゃんと生まれたときの才能を使って生きてきた人であり、ウソはない人だと判断し、お見合いを許可したわけです。

実は国際結婚で結婚してから、大きなトラブルを起こす男性は、パターンが決まっています。ウソのある人です。偽善者です。だから、欲望や過去の異性関係を隠してお見合いをする人は面接の結果、不合格とするのです。偽善者は、結婚してから女性が耐え切れなくなつて逃げる人が多いからです。

この初老の男性の場合、心配なのはお金で女性を自由にしてきた長年の経験が、失敗の原因になるかもしれないということでした。長年の癖、心は急には変わりませんからアドバイスもしませんでした。男が愛を示せばフィリピン人女性は愛で応えてくれます。しかし、男がお金を示せばフィリピン人女性は、財産を狙ってきます。社会保障がない国で学歴もない女性達はいかに生きぬくかという点では、とても野性的で日本人は勝負になりません。

フィリピンでは35歳から40歳くらいの女性数人と会ってもらいました。しかし、お見合いの結果、なんとお見合いの席に連れてきていた15歳の娘を気にいつてしまつて、この娘を結婚相手として買うからいくらだせばいいんだと言つてきます。筆者はこの時点で、ストップをかけたのですが、本人が自由に交渉させると我侭を言います。しかたないので、ほつとくと、おこずかいとして現金で40万円（1年間の公務員の給与です）をわたして、日本にいったん帰つてまたくるから、そのときは夫婦になろうと口説いていました。そのお金、貧しい女性にあげるつもりならそれでいいけれど、娘を買う手付金だと思つているなら許しませんと言つと、そんなつもりはないとカッコをつけて言うのでほつとききました。もちろん、その女性は二度と彼には会いませんでしたが・・・。

命式にある星を発動させていけば、ある程度の成功はできるものです。しかし、それは第一歩に過ぎません。命式の特徴を突き抜けることが第二歩目の成功への階段です。具体的には、庚の真反対の乙（柔軟性と深慮）、廉貞星の真反対の天同星（慈愛）、牡牛座の真反対の

さそり座（情緒）、尾宿と真反対の井宿や室宿（深い知恵）といった要素を習得しなければいけない事件が数多くやってきたはずなのです。それを無視して、今までのやり方で生きていこうとした結果が、お見合いに出してしまったということなのです。

この経験をしてから、筆者は60歳の還暦を超えたら、命式を突き抜けた生き方をしないと次の段階にいけないと思うようになり、そのために生活環境も変えていつている最中なのです。

■運命の神との付き合い方

運命の神は、

あなたの敵にもなる、味方にもなる。

どちらかを選択しようとしてはいけない。

それは運命の神の勝手だ。

あなたを幸せにしようとして、運命の神は敵になったり味方になったりする。あれは嫌い、これは好きという選択をしている間は、運命の神に出会えない。なんでも来い。

すべてを受け入れてやるという遊び心でいると出会える。